

平成24年度 市民意識調査

# 仕事の見直しのための状況調査

平成24年11月

北九州市

## は　じ　め　に

北九州市では、市民の意見を今後の市政運営に役立てるため、毎年「市政評価と市政要望」及び「特定テーマ」についての市民意識調査を実施しています。

「特定テーマ」調査では市政の重要事項を取り上げており、本年度は、「仕事の見直しのための状況調査」というテーマで調査を行い報告書にまとめました。

市では幅広い分野の仕事を行っており、仕事を行う際には常に見直しに努め、より良い方法を考えております。しかし、それぞれの仕事に関わっている方々や市の職員の意見等だけでは、状況の把握が難しい分野も存在しております。

今回の調査で寄せられた市民の皆さまからのご意見は、行政評価の成果指標への活用を図るなど、今後の仕事の見直しに役立てていきたいと思っております。

アンケート調査にご協力くださいました皆さま方に、厚くお礼申し上げます。

平成24年　11月

北九州市長　　北　橋　健　治

# 目 次

## I 調査の概要

1	調査の目的	1
2	調査の設計	1
3	調査の実施	3
4	回収結果	3

## II 調査結果

1	回答者の構成	4
2	調査の結果	6
	(1) 消費生活センターについて	6
	(2) 消費者トラブルについて	10
	(2) - 1 消費者トラブルの相談先について	14
	(3) 今後、消費者トラブルを抱えた場合の相談先について	17
	(4) まちの治安について	21
	(5) 暴力追放対策の進捗について	26
	(6) 平和に対する取組みについて	30
	(7) 多文化共生の推進について	34
	(8) 魅力ある海辺づくりについて	38
	(9) 市内に外出して鑑賞した芸術・文化活動について	42
	(9) - 1 市内に外出して芸術・文化活動を鑑賞した場所について	47
	(10) スポーツ・運動の実施状況について	52
	(11) 競技場でのスポーツ観戦について	56
	(12) 公共スポーツ施設の利用について	60
	(12) - 1 公共スポーツ施設の満足度について	64
	(12) - 2 公共スポーツ施設の満足度の理由について	68
	(12) - 3 公共スポーツ施設を利用していない理由について	69
	(13) 地域づくりへの参加状況について	73
	(13) - 1 地域づくりへの参加意向について	77
	(14) 北九州市自治基本条例について	81
	(15) 市への好感度について	85
	(16) 市への愛着度について	89
	(17) 市への誇りや自信について	93
	(18) 市の魅力について	97
	(19) 来訪者へのおもてなしの気持ちについて	101
	(19) - 1 おもてなしの気持ちによる具体的な交流について	105

(20) 環境保全の取組みについて .....	106
(21) ESDの取組みについて .....	113
(22) 家庭における地球温暖化対策への取組みについて .....	117
3 まとめ .....	120

## 資料編

1 クロス集計表 .....	124
2 調査票 .....	162

# 仕事の見直しのための状況調査

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

北九州市では、毎年度、特定テーマについて市民意識調査を実施している。平成24年度は「仕事の見直しのための状況調査」というテーマで実施した。

市では幅広い分野の仕事を行っており、仕事を行う際には常に見直しに努め、より良い方法を考えている。しかし、それぞれの仕事に関わっている方々や市の職員の意見等だけでは、状況の把握が難しい分野も存在している。

そこで今年度は「仕事の見直しのための状況調査」をテーマとして、様々な分野について市民の意見を収集し、仕事の見直しに役立てるために本調査を実施したものである。

また、調査結果については、行政評価の取組結果（平成23年度実績）において、施策や事業の成果指標として活用を図っている。

### 2 調査の設計

#### (1) 調査票

この調査は、郵送調査で実施するため設問をできるだけ整理し、以下8分野29項目の設問で構成した。

なお、問1については、例年実施している「市政評価と市政要望」の設問であり、別途報告書作成を行っている（調査票：巻末参照）

<b>信頼のきずなによる安全で安心できるまちづくり</b>	
問2	消費者センターについて
問3	消費者トラブルについて
副問1	消費者トラブルの相談先について
問4	今後、消費者トラブルを抱えた場合の相談先について
問5	まちの治安について
問6	暴力追放対策の進捗について
<b>すべての市民が人権を尊重され自分らしく暮らせるまちづくり</b>	
問7	平和に対する取組みについて
問8	多文化共生の推進について
<b>快適に暮らせる身近な生活空間づくり</b>	
問9	魅力ある海辺づくりについて
<b>生活に根つき、誇れる文化・スポーツの振興</b>	
問10	市内に外出して鑑賞した芸術・文化活動について
副問1	市内に外出して芸術・文化活動を鑑賞した場所について
問11	スポーツ・運動の実施状況について
問12	競技場でのスポーツ観戦について
問13	公共スポーツ施設の利用について

副問 1	公共スポーツ施設の満足度について
副問 2	公共スポーツ施設の満足度の理由について
副問 3	公共スポーツ施設を利用していない理由について
<b>活発な市民活動を促進する環境づくり</b>	
問 14	地域づくりへの参加状況について
副問 1	地域づくりへの参加意向について
問 15	北九州市自治基本条例について
<b>にぎわいづくりの推進</b>	
問 16	市への好感度について
問 17	市への愛着度について
問 18	市への誇りや自信について
問 19	市の魅力について
問 20	来訪者へのおもてなしの気持ちについて
副問 1	おもてなしの気持ちによる具体的な交流について
<b>世界に広がる市民環境力の発揮</b>	
問 21	環境保全の取組みについて
問 22	E S Dの取組みについて
<b>地域から低炭素社会への取組み</b>	
問 23	家庭における地球温暖化対策への取組みについて
フェイスシート	性別・年齢・居住歴・職業・居住区

## (2) 標本設計

[調査対象者]

市内に居住する 20 歳以上の男女個人 3,000 人（市内在住外国人 39 人含む）

[標本抽出]

標本抽出は、平成 24 年 4 月 2 日現在の住民基本台帳・外国人登録台帳（20 歳以上 811,084 人、外国人は 10,425 人）をもとに 3,000 人を等間隔抽出した。

### 行政区別の設定標本数

区 分	居 住 人 口	抽 出 標 本 数		構 成 比
		抽出数	外国人	
門司区	89,573 人	383	(6) 人	12.8 %
小倉北区	152,339	588	(13)	19.6
小倉南区	174,050	601	(4)	20.0
若松区	71,329	245	(3)	8.2
八幡東区	61,346	227	(3)	7.6
八幡西区	211,668	767	(8)	25.6
戸畑区	50,779	189	(2)	6.3
計	811,084	3,000	(39)	100.0

(注 1) 居住人口は 20 歳以上人口で抽出リード件数である

(注 2) ( ) 標本数は抽出した外国人 39 人の内訳である

### (3) 調査方法

郵送調査法

## 3 調査の実施

この調査は、北九州市市民文化スポーツ局市民部広聴課が主体となり実施したものである。

### (1) 実査

調査開始 平成24年 4月20日

督促状発送 平成24年 5月 2日

回収締切り 平成24年 5月11日

### (2) 集計・分析

集計、分析・コメントは株式会社東京商工リサーチが実施した。

※数値の単位未満は四捨五入を原則としたので、総数と内容の合計は必ずしも一致しない場合がある。

## 4 回収結果

発送標本数3,000票のうち、回収標本総数は1,407票であった。このうち有効回収数は、1,400票で、有効回収率は46.7%であった。(昨年度は有効回収数1,547票、有効回収率は51.6%)

なお、行政区別の回収状況は、下表のとおりである。

行政区別回収状況

区分	設定標本数	有効回収数	有効回収率
門司区	383 人	182 人	47.5 %
小倉北区	588	237	40.3
小倉南区	601	277	46.1
若松区	245	133	54.3
八幡東区	227	118	52.0
八幡西区	767	371	48.4
戸畑区	189	82	43.4
計	3,000	1,400	46.7

(注1) 設定標本数は外国人(39サンプル)を含む

## II 調査結果

### 1 回答者の構成

有効回収数 1,400 票の標本は下表のとおりである。

#### 回 答 者 の 構 成

N : 1,400 人

性別	男性	女性	無回答				
	41.4% 579人	57.1% 800人	1.5% 21人				
年齢	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
	7.4% 104人	12.1% 170人	14.1% 198人	17.6% 246人	23.1% 324人	24.1% 338人	1.4% 20人
居住歴	1年未満	2年未満	3年未満	5年未満	10年未満	20年未満	30年未満
	1.0% 14人	1.0% 14人	0.9% 12人	2.4% 34人	4.5% 63人	7.1% 100人	13.7% 192人
	30年以上	無回答					
	67.8% 949人	1.6% 22人					
居住区	門司区	小倉北区	小倉南区	若松区	八幡東区	八幡西区	戸畑区
	13.0% 182人	16.9% 237人	19.8% 277人	9.5% 133人	8.4% 118人	26.5% 371人	5.9% 82人
職業	自営業	自由業	会社員	公務員・教員	農・林・漁業	主婦・主夫 (パートなど)	主婦・主夫 (専業)
	7.8% 109人	0.9% 12人	25.5% 357人	3.6% 51人	0.4% 6人	12.6% 177人	18.3% 256人
	学生	無職	その他	無回答			
	0.9% 13人	24.1% 338人	3.9% 55人	1.9% 26人			

なお、調査実施時期間近である平成 24 年 3 月 31 日現在の住民基本台帳による 20 歳以上の北九州市民の性別、年齢、住居区の属性別構成は下表に示すとおりである。

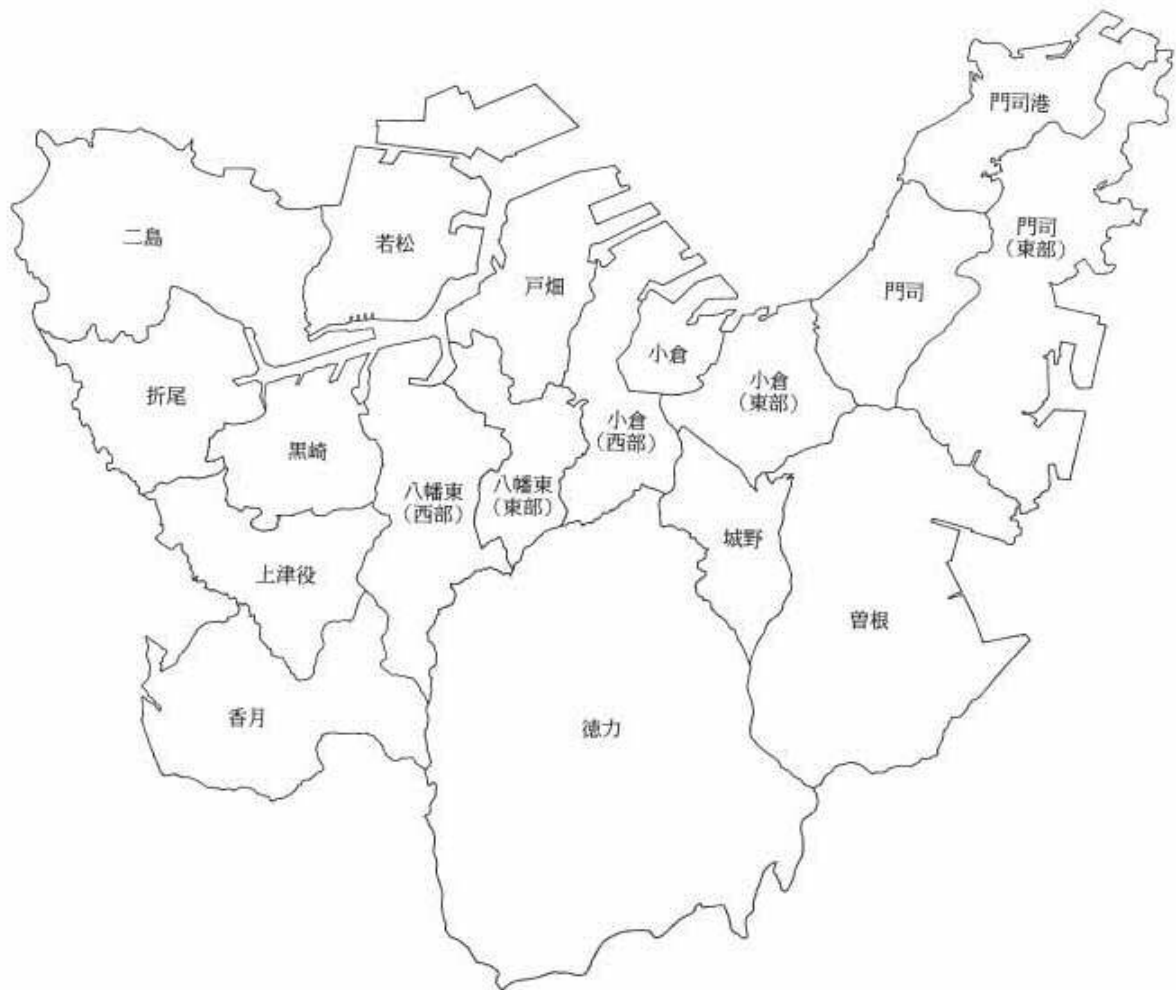
これを、今年度調査の有効回収の標本構成と比較すると、性別では調査サンプルの男性が実態より 5.0 ポイント低い結果となっている。年齢別では、例年の傾向であるが、有効回答率の低さを反映してか 20 歳代で調査サンプルが住民基本台帳の実態ベースより 5.2 ポイント低く、逆に 60 歳代では調査サンプルのウエイトが 4.7 ポイント高いのが目立っている。なお、行政区別では概ね両者間に大きな差はみられない。調査結果の解釈にあたっては、主にこの 3 点に関するウエイトの構成差異に留意されたい。

#### 平成 24 年 3 月 31 日現在の住民基本台帳による人口構成 (20 歳以上)

性別	男	女					
	46.4%	53.6%					
年齢	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	
	12.6%	15.7%	15.2%	15.0%	18.4%	23.2%	
居住区	門司区	小倉北区	小倉南区	若松区	八幡東区	八幡西区	戸畑区
	11.1%	18.6%	21.6%	8.8%	7.6%	26.1%	6.3%



また、調査結果をより細かく把握するため、行政区による居住区を以下に示す 18 地区に分割した集計も行っている。



## 2 調査の結果

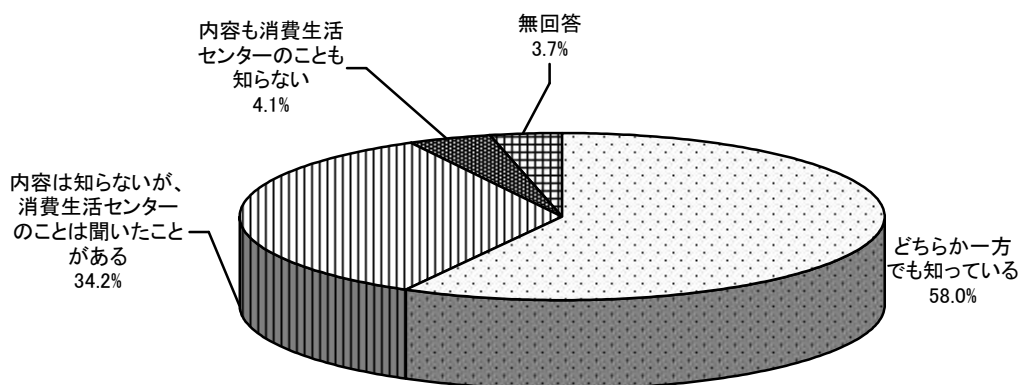
### (1) 消費生活センターについて

問2 あなたは、消費生活センターが、消費生活に関する苦情相談（契約・悪質商法など）や多重債務問題に関する相談を受け付けていることを知っていますか。また、弁護士や司法書士による法律無料相談を実施していることを知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

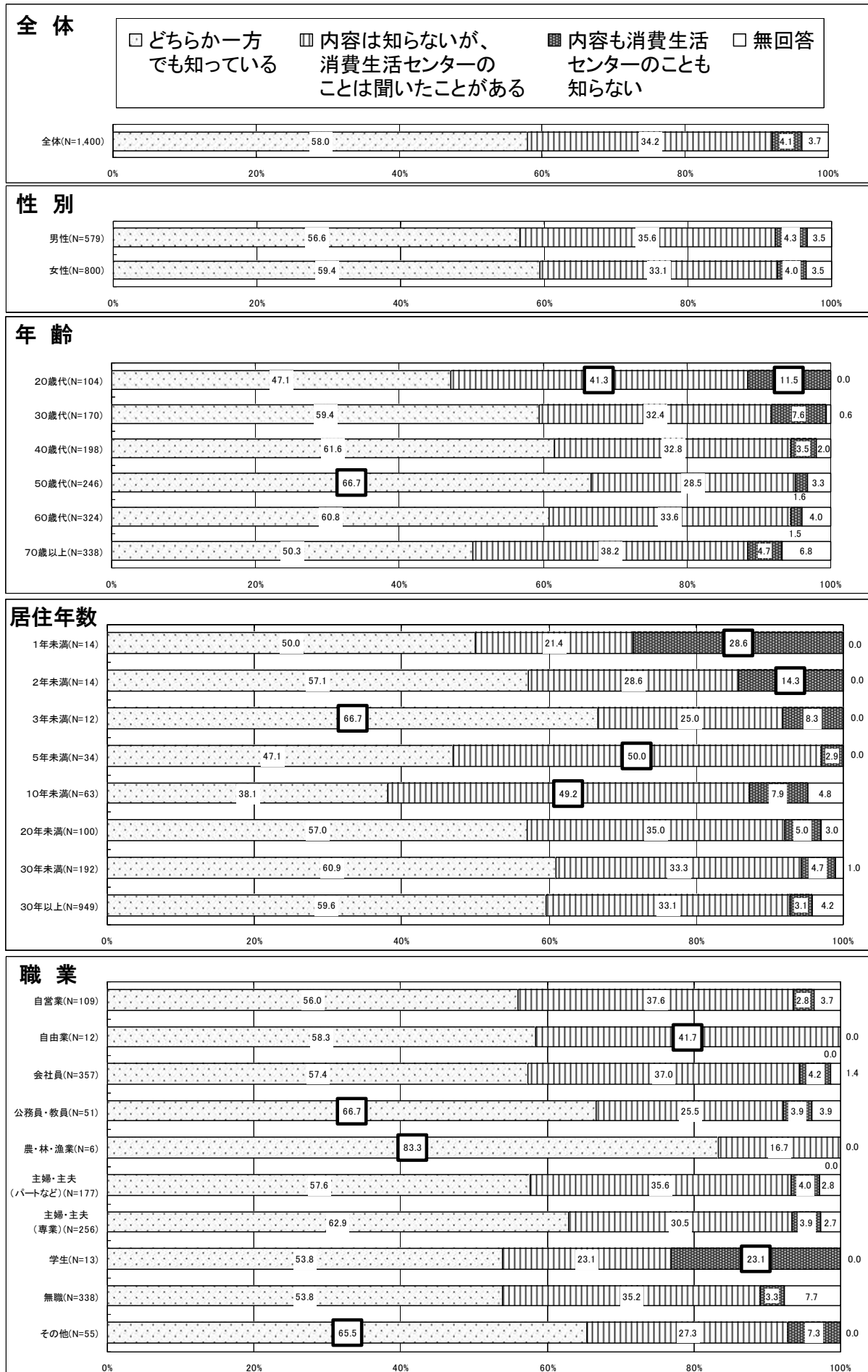
N : 1,400 人

項目	回答数（人）	割合（％）
1 どちらか一方でも知っている	812	58.0
2 内容は知らないが、消費生活センターのことは聞いたことがある	479	34.2
3 内容も消費生活センターのことも知らない	57	4.1
無回答	52	3.7

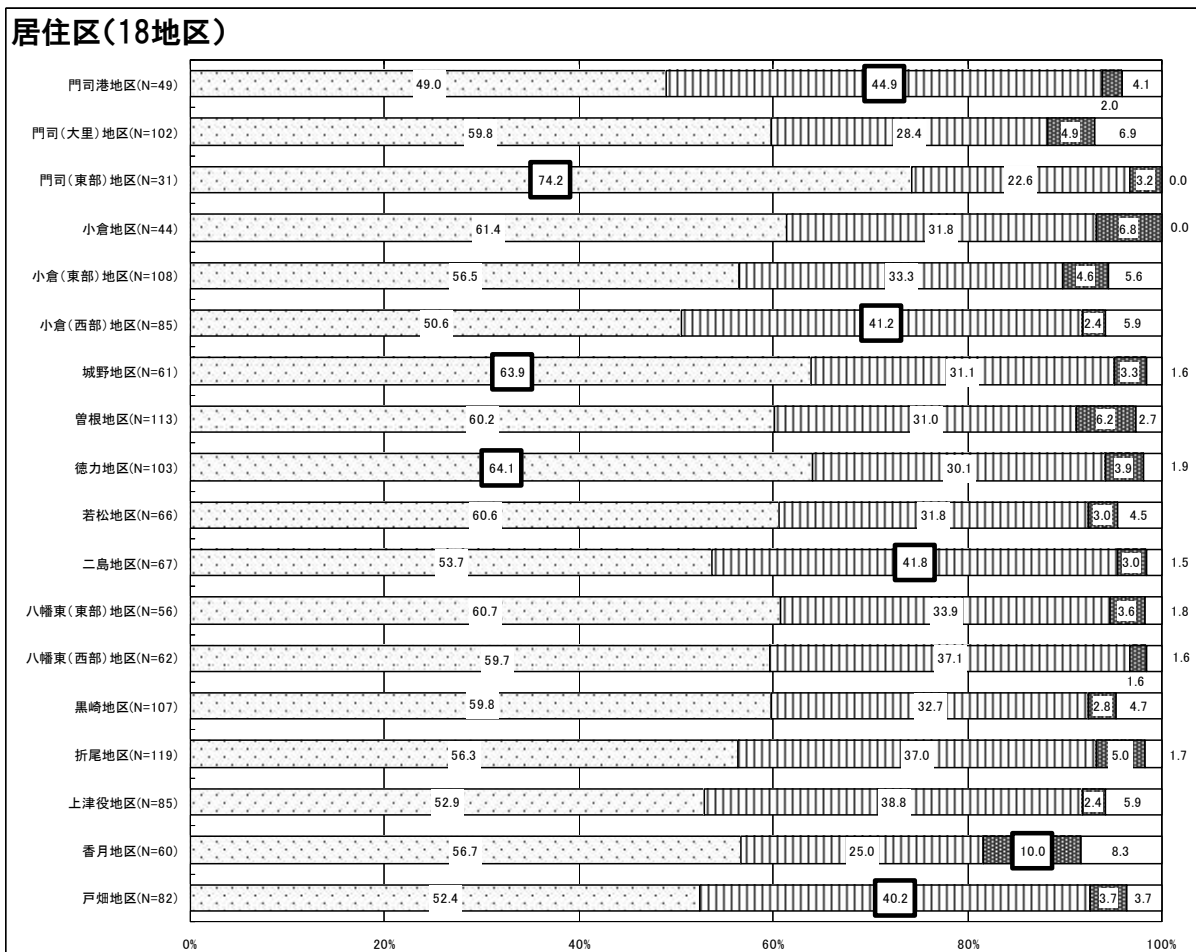
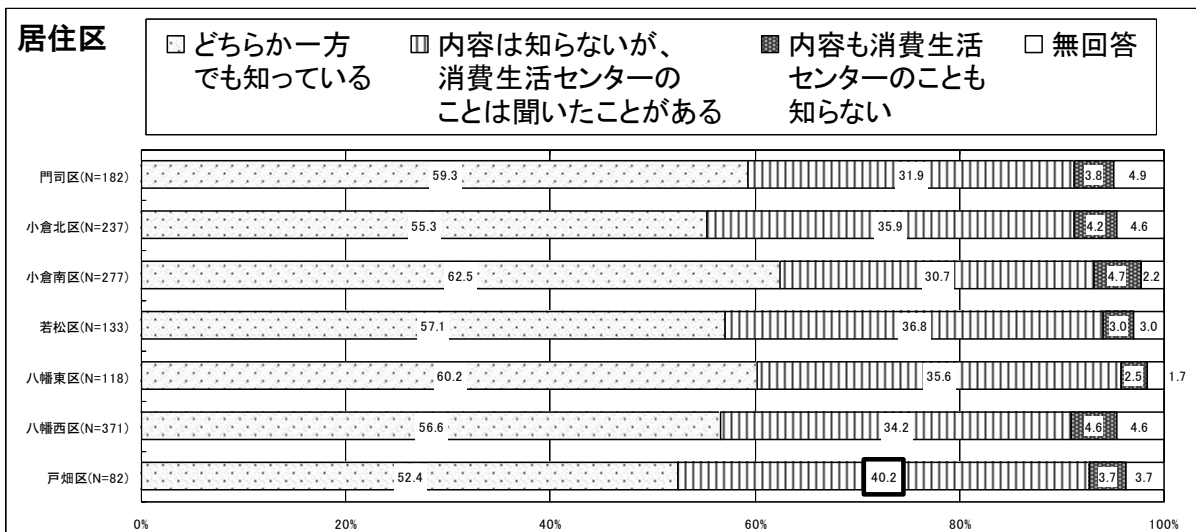
◇ 消費生活センターが、消費生活に関する苦情相談や多重債務問題に関する相談を受け付けていること、及び弁護士や司法書士による法律無料相談を実施していることを、6割弱の市民が「どちらか一方でも知っている」（58.0%）。



## 問2 消費生活センターについて



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

### 消費生活センターについて

#### 【全体的傾向】

「消費生活センター」が、消費生活に関する苦情相談や多重債務問題に関する相談、及び弁護士や司法書士による法律無料相談を実施していることについて、認知状況を尋ねてみた。

結果は、「どちらか一方でも知っている」が58.0%で最も多く、6割弱となった。また、「内容は知らないが、消費生活センターのことは聞いたことがある」が34.2%と続き、これらを合わせ

た「認知層」は 92.2%と 9 割強を占めた。一方、「内容も消費生活センターのことも知らない」とする「無認知層」は 4.1%にとどまった。

#### 【 属 性 別 に み た 傾 向 】

- ◇ 性別では、「どちらか一方でも知っている」は、女性 (59.4%) が男性 (56.6%) をやや上回ったが、「内容は知らないが、消費生活センターのことは聞いたことがある」は、男性 (35.6%) が女性 (33.1%) をやや上回った。「内容も消費生活センターのことも知らない」(男性 4.3%、女性 4.0%) では、大きな差異は見られなかった。
- ◇ 年齢別では、「どちらか一方でも知っている」は 50 歳代 (66.7%) で最も多かった。40 歳代から 60 歳代は 6 割を上回り、30 歳代 (59.4%) も 6 割に近かったが、20 歳代 (47.1%) と 70 歳以上 (50.3%) で比較的割合が少なかった。「内容は知らないが、消費生活センターのことは聞いたことがある」では、20 歳代 (41.3%) で最も多く、次いで 70 歳以上 (38.2%) と続いた。また、「内容も消費生活センターのことも知らない」は、20 歳代 (11.5%) で唯一 1 割を上回り、20 歳代の認知度がやや低い傾向にあった。
- ◇ 居住年数別では、「どちらか一方でも知っている」は 3 年未満 (66.7%) で最も多く、次いで 30 年未満 (60.9%)、30 年以上 (59.6%) と続いた。一方、最も少ないのは 10 年未満 (38.1%) で、次いで 5 年未満 (47.1%) と、3 年以上 10 年未満の層で 5 割を下回った。「内容は知らないが、消費生活センターのことは聞いたことがある」では 5 年未満 (50.0%) で最も多く、次いで 10 年未満 (49.2%)、20 年未満 (35.0%) と続いた。「内容も消費生活センターのことも知らない」は 1 年未満 (28.6%) で突出して多く、次いで 2 年未満 (14.3%) と、居住年数が短い層で割合が多かった。
- ◇ 「どちらか一方でも知っている」は、公務員・教員 (66.7%) で最も多く、次いで、その他 (65.5%)、主婦・主夫 (専業) (62.9%) と続いた。学生及び無職 (ともに 53.8%) で最も少なかったが、全ての職業層で 5 割を上回った。「内容は知らないが、消費生活センターのことは聞いたことがある」は、自由業 (41.7%) で最も多く、「認知層」では自由業は 100.0%であった。「内容も消費生活センターのことも知らない」は、学生 (23.1%) が唯一 2 割を上回った。

(注) 農・林・漁業については、サンプル数 (6) が少ないため、コメントでは触れないことにする (以下、同様)。

- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「どちらか一方でも知っている」は小倉南区 (62.5%) で最も多く、戸畑区 (52.4%) で最も少なく、その差は 10.1 ポイントと、若干地区による差が出た。「内容は知らないが、消費生活センターのことは聞いたことがある」は、戸畑区 (40.2%) で最も多かった。「認知層」は八幡東区 (95.8%) で最も多く、八幡西区 (90.8%) で最も少なかったが、その差は 5.0 ポイントと大きな差は見られなかった。「内容も消費生活センターのことも知らない」は小倉南区 (4.7%) で最も多かった。

行政区を 18 地区に細分化して見ると、「どちらか一方でも知っている」は門司 (東部) 地区 (74.2%) で最も多く、唯一 7 割を上回った。次いで徳力地区 (64.1%)、城野地区 (63.9%) と続いた。「内容は知らないが、消費生活センターのことは聞いたことがある」は門司港地区 (44.9%)、二島地区 (41.8%)、小倉 (西部) 地区 (41.2%)、戸畑地区 (40.2%) で 4 割を上回った。「認知層」は門司 (東部) 地区、及び八幡東 (西部) 地区 (ともに 96.8%) で最も多く、次いで、小倉 (東部) 地区 (89.8%)、門司 (大里) 地区 (88.2%)、香月地区 (81.7%) となっている。「内容も消費生活センターのことも知らない」は香月地区で (10.0%) で最も多く、唯一 1 割を占めた。

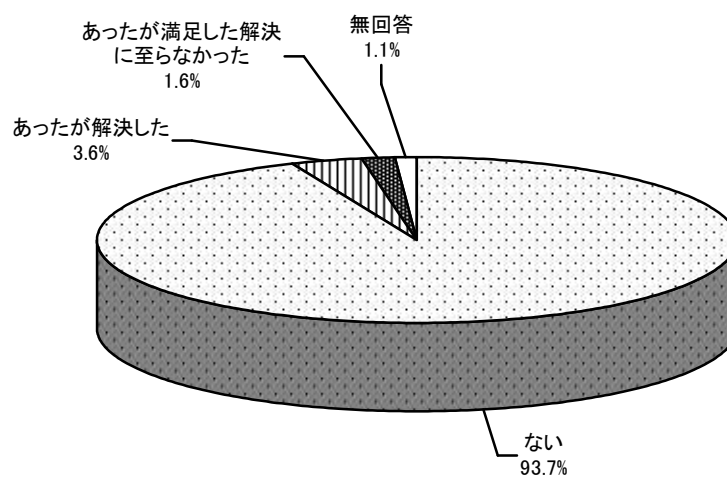
## (2) 消費者トラブルについて

問3 あなたは、この1年間、詐欺などの悪質商法や契約上のトラブルといった消費者問題や、多重債務問題を抱えたことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

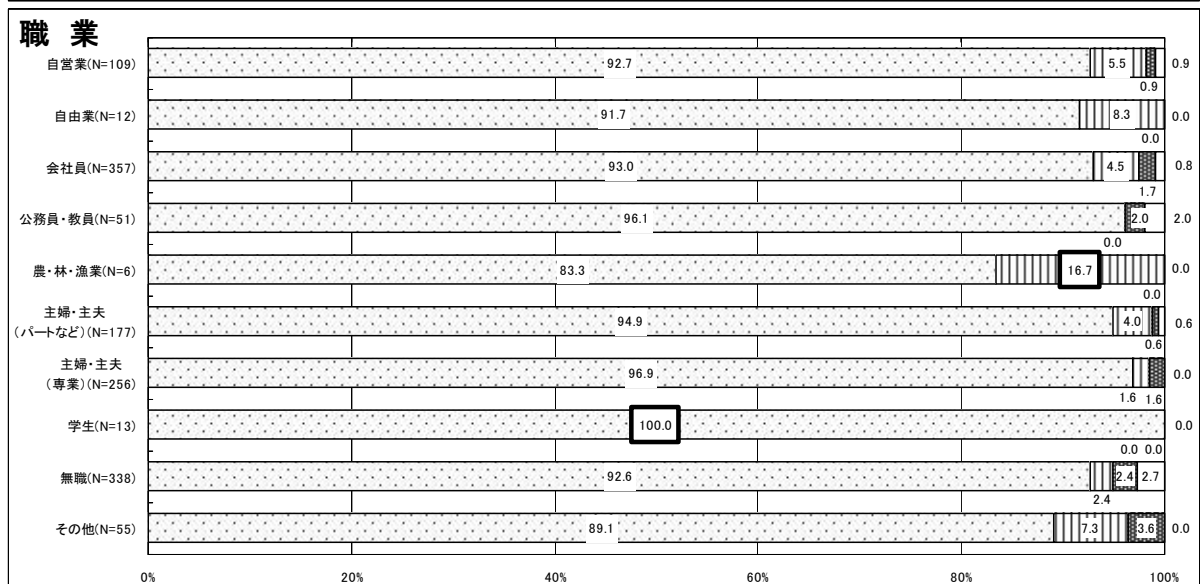
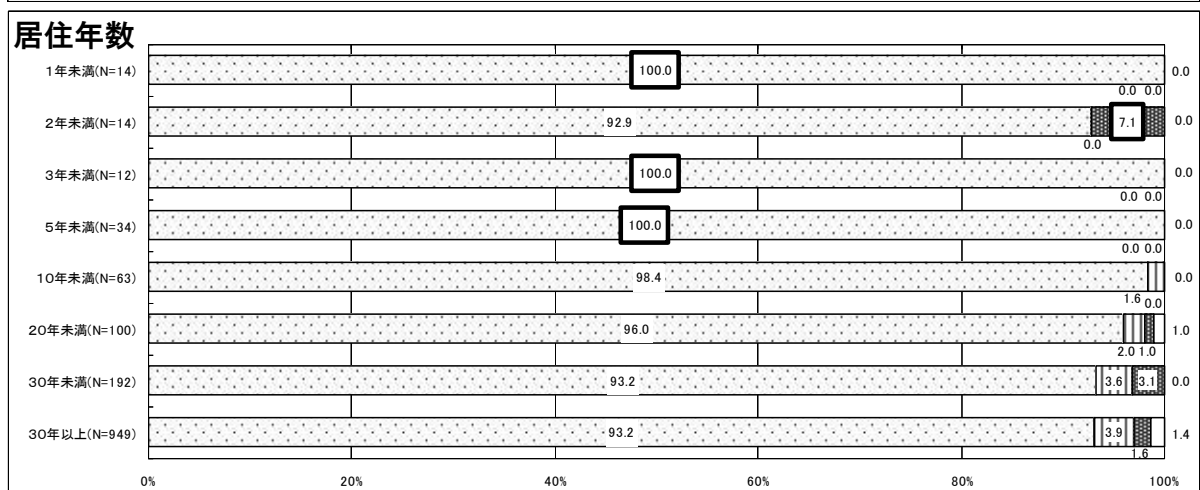
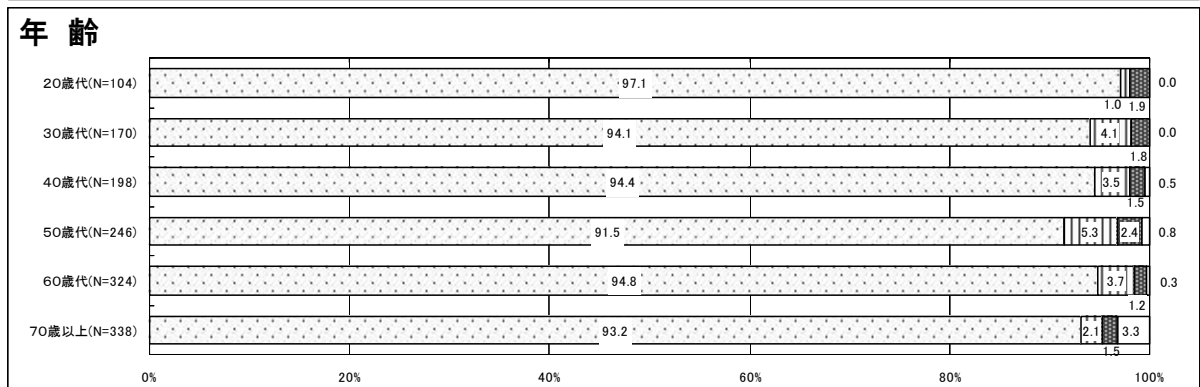
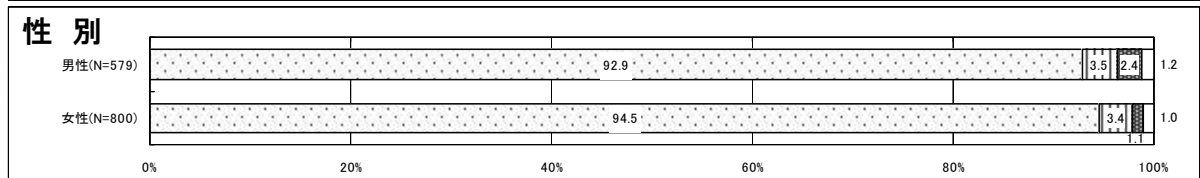
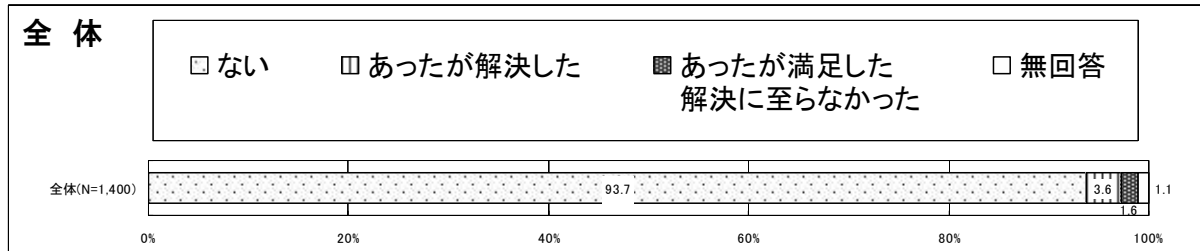
N : 1,400人

項目	回答数(人)	割合(%)
1 ない	1,312	93.7
2 あったが解決した	50	3.6
3 あったが満足した解決に至らなかった	23	1.6
無回答	15	1.1

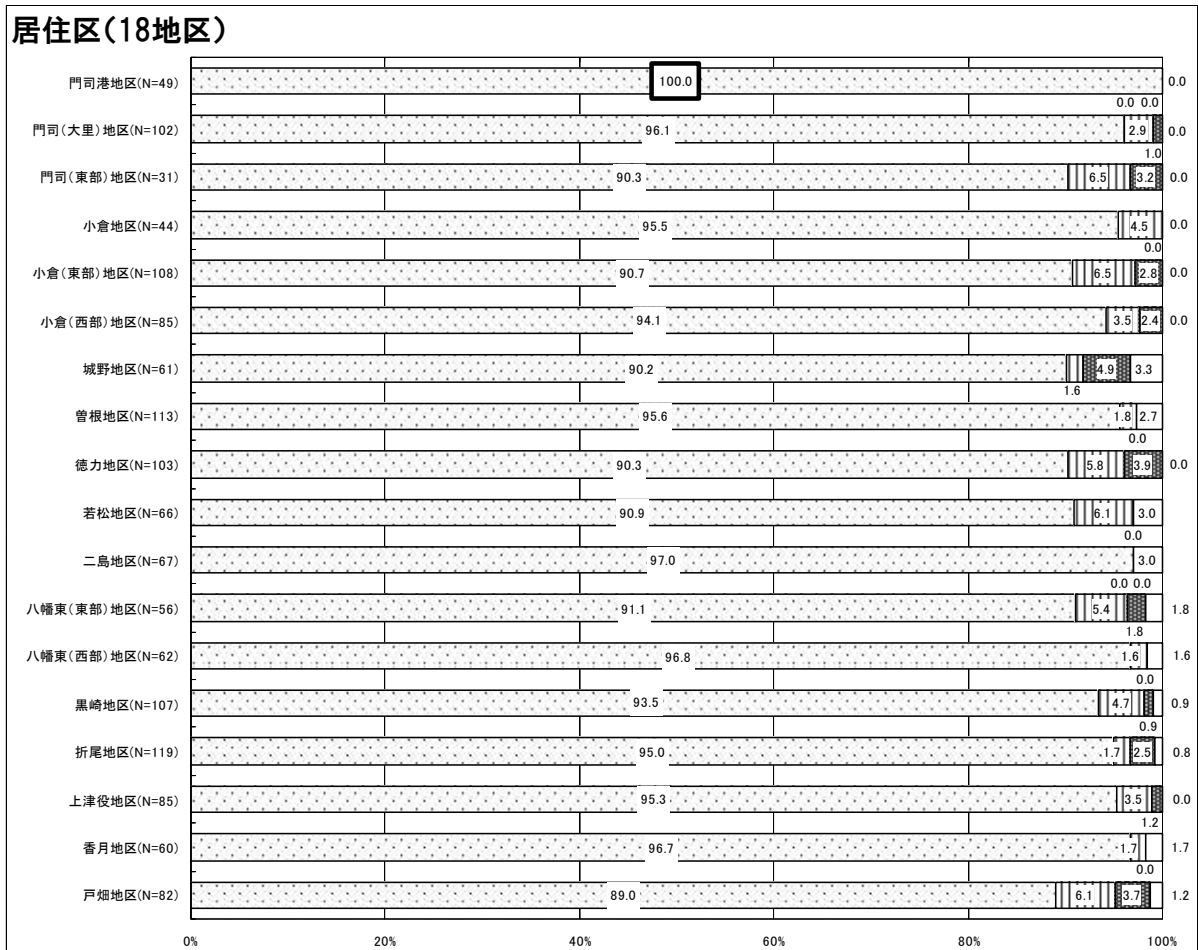
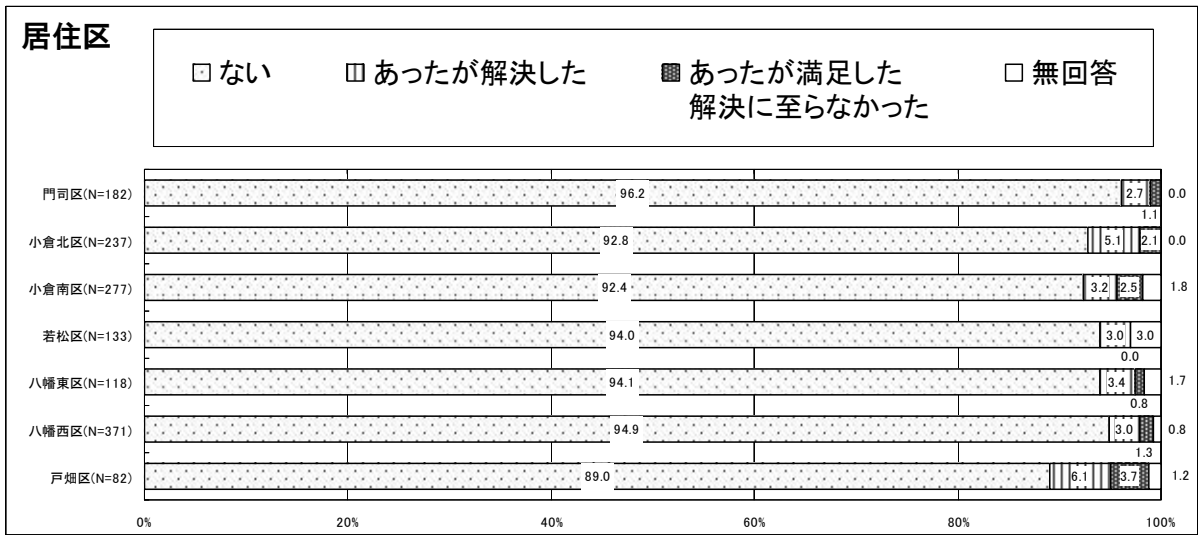
◇ 9割強の市民は、この1年間、消費者問題や多重債務問題を抱えたことが「ない」。



問3 消費者トラブルについて



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

## 消費者トラブルについて

### 【全体的傾向】

ここでは、この1年間、悪質商法や消費者問題、多重債務問題を抱えたことがあるかどうか尋ねてみた。

結果は、「ない」が突出して多く 93.7%となり、9割強の市民がこの1年間で消費者トラブルを抱えていないことがわかった。「あったが解決した」は 3.6%、「あったが満足した解決に至ら



なかった」は1.6%となり、これらを足した「経験層」は5.2%であった。

#### 【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、「ない」は女性（94.5%）が男性（92.9%）を僅かに上回った。「経験層」は、男性（5.9%）が女性（4.5%）を僅かに上回り、「あったが満足した解決に至らなかった」も、男性（2.4%）が女性（1.1%）を僅かに上回った。
- ◇ 年齢別では、「ない」は20歳代（97.1%）で最も多く、50歳代（91.5%）で最も少なかったが、その差は5.6ポイントと大きな差は見られなかった。「経験層」は50歳代（7.7%）で最も多く、「あったが解決した」（5.3%）、「あったが満足した解決に至らなかった」（2.4%）ともに50歳代で最も多かった。
- ◇ 居住年数別では、「ない」は1年未満、3年未満、及び5年未満（ともに100.0%）で最も多く、2年未満（92.9%）で最も少なかった。「経験層」は2年未満（7.1%）で最も多く、「あったが満足した解決に至らなかった」も2年未満（7.1%）が最も多かった。「あったが解決した」は、30年以上（3.9%）と30年未満（3.6%）で3%を上回り、他の居住年数層より若干多かった。
- ◇ 職業別では、「ない」は、学生が100.0%で最も多く、次いで、主婦・主夫（専業）（96.9%）、公務員・教員（96.1%）と続いた。「経験層」は、その他（10.9%）で最も多く、次いで自由業（8.3%）、自営業（6.4%）と続いたが、自由業は全員が「あったが解決した」（8.3%）との回答であった。「あったが満足した解決に至らなかった」は、その他（3.6%）で最も多かった。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「ない」は門司区（96.2%）で最も多く、戸畑区（89.0%）で最も少なかったが、その差は7.2ポイントと大きな差は見られなかった。「経験層」は戸畑区（9.8%）で最も多く、次いで小倉北区（7.2%）、小倉南区（5.7%）と続いた。「あったが解決した」は戸畑区（6.1%）で最も多く、次いで小倉北区（5.1%）と続き、この2区で5%を上回った。「あったが満足した解決に至らなかった」は戸畑区（3.7%）で最も多く、次いで小倉南区（2.5%）、小倉北区（2.1%）と続いた。

行政区を18地区に細分化して見ると、「ない」は門司港地区（100.0%）で最も多く、戸畑地区（89.0%）以外の17地区で9割を上回った。「経験層」は戸畑地区（9.8%）で最も多く、次いで門司（東部）地区及び徳力地区（ともに9.7%）、小倉（東部）地区（9.3%）と続いた。「あったが満足した解決に至らなかった」は城野地区（4.9%）で最も多く、次いで徳力地区（3.9%）、戸畑地区（3.7%）、門司（東部）地区（3.2%）と続いた。

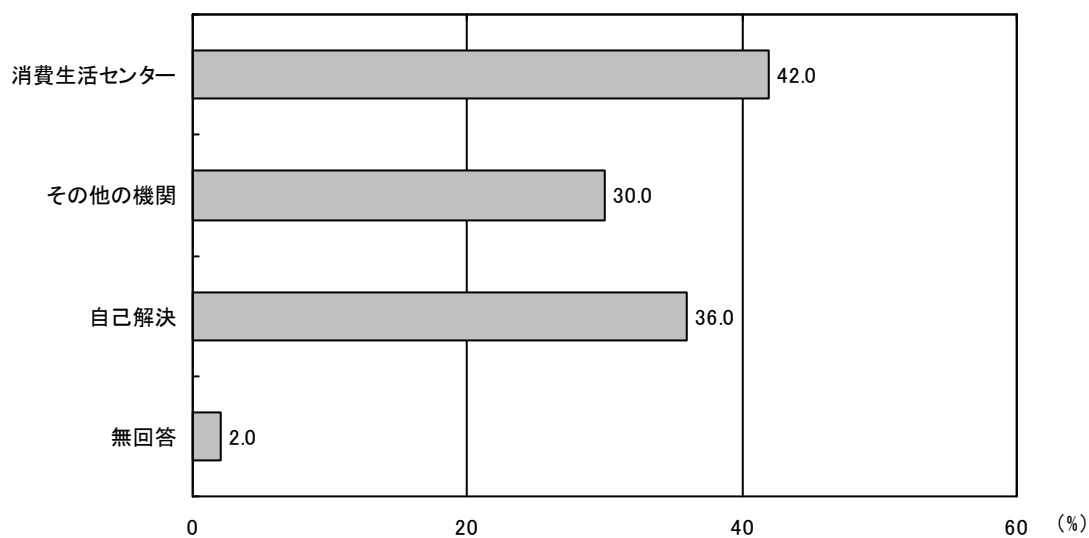
## (2) - 1 消費者トラブルの相談先について

副問3-1 問3で「2 あったが解決した」とお答えした方におたずねします。  
解決するための相談先はどこでしたか。次の中から当てはまるものを、いくつでも選んでください。

N : 50人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 消費生活センター	21	42.0
2 その他の機関	15	30.0
3 自己解決	18	36.0
無回答	1	2.0

◇ 消費者トラブルがあったが解決した市民の相談先は、「消費生活センター」が4割強で最多。



副問3-1 消費者トラブルの相談先について

		サンプル数	消費生活センター	その他の機関	自己解決	無回答	
全体		50	42.0	30.0	36.0	2.0	
性別	男性	20	35.0	20.0	<b>50.0</b>	5.0	
	女性	27	<b>48.1</b>	33.3	29.6	0.0	
年齢別	20歳代	1	<b>100.0</b>	0.0	0.0	0.0	
	30歳代	7	28.6	28.6	<b>57.1</b>	0.0	
	40歳代	7	28.6	28.6	<b>57.1</b>	0.0	
	50歳代	13	46.2	23.1	30.8	0.0	
	60歳代	12	<b>50.0</b>	<b>41.7</b>	33.3	0.0	
	70歳以上	7	42.9	14.3	28.6	14.3	
居住年数別	1年未満	0	-	-	-	-	
	2年未満	0	-	-	-	-	
	3年未満	0	-	-	-	-	
	5年未満	0	-	-	-	-	
	10年未満	1	0.0	<b>100.0</b>	0.0	0.0	
	20年未満	2	<b>100.0</b>	0.0	<b>50.0</b>	0.0	
	30年未満	7	<b>57.1</b>	14.3	<b>42.9</b>	0.0	
	30年以上	37	37.8	29.7	37.8	2.7	
職業別	自営業	6	16.7	<b>50.0</b>	33.3	0.0	
	自由業	1	0.0	0.0	<b>100.0</b>	0.0	
	会社員	16	37.5	18.8	<b>50.0</b>	0.0	
	公務員・教員	0	-	-	-	-	
	農・林・漁業	1	0.0	0.0	100.0	0.0	
	主婦・主夫(パートなど)	7	<b>57.1</b>	<b>42.9</b>	14.3	0.0	
	主婦・主夫(専業)	4	<b>50.0</b>	25.0	<b>50.0</b>	0.0	
	学生	0	-	-	-	-	
	無職	8	<b>50.0</b>	25.0	25.0	12.5	
その他	4	<b>75.0</b>	25.0	25.0	0.0		
居住区別	行政区別	門司区	5	40.0	<b>60.0</b>	40.0	0.0
		小倉北区	12	<b>58.3</b>	25.0	25.0	0.0
		小倉南区	9	33.3	11.1	<b>55.6</b>	11.1
		若松区	4	<b>50.0</b>	25.0	<b>50.0</b>	0.0
		八幡東区	4	<b>50.0</b>	0.0	<b>50.0</b>	0.0
		八幡西区	11	27.3	<b>45.5</b>	27.3	0.0
		戸畑区	5	40.0	<b>40.0</b>	20.0	0.0
居住区別(18地区別)	門司区	門司港	0	-	-	-	-
		門司(大里)	3	0.0	<b>66.7</b>	33.3	0.0
		門司(東部)	2	<b>100.0</b>	<b>50.0</b>	<b>50.0</b>	0.0
	小倉北区	小倉	2	<b>50.0</b>	<b>100.0</b>	0.0	0.0
		小倉(東部)	7	<b>71.4</b>	0.0	28.6	0.0
		小倉(西部)	3	33.3	33.3	33.3	0.0
	小倉南区	城野	1	<b>100.0</b>	0.0	<b>100.0</b>	0.0
		曾根	2	0.0	0.0	<b>50.0</b>	50.0
		徳力	6	33.3	16.7	<b>50.0</b>	0.0
	若松区	若松	4	<b>50.0</b>	25.0	<b>50.0</b>	0.0
		二島	0	-	-	-	-
	八幡東区	八幡東(東部)	3	<b>66.7</b>	0.0	33.3	0.0
		八幡東(西部)	1	0.0	0.0	<b>100.0</b>	0.0
	八幡西区	黒崎	5	20.0	<b>60.0</b>	20.0	0.0
		折尾	2	<b>50.0</b>	<b>50.0</b>	0.0	0.0
		上津役	3	33.3	33.3	33.3	0.0
	戸畑区	香月	1	0.0	0.0	<b>100.0</b>	0.0
		戸畑	5	40.0	<b>40.0</b>	20.0	0.0

(注) **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

## 消費者トラブルの相談先について

### 【全体的傾向】

問3で、「あったが解決した」と回答した50人に、その相談先を尋ねてみた。

その結果、「消費生活センター」が42.0%と最も多く、4割強が挙げている。次いで、「自己解決」が36.0%となった。

なお、「その他の機関」（15人）には以下の機関が挙げられた。

- 弁護士
- 司法書士
- 警察
- 法テラス
- 区役所の無料法律相談

### 【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、「消費生活センター」（男性35.0%、女性48.1%）、「その他の機関」（男性20.0%、女性33.3%）ともに、女性が男性を上回った。一方、「自己解決」は、男性（50.0%）が女性（29.6%）を大きく上回り、女性のほうが第三者機関に相談する傾向が高かった。
- ◇ 年齢別では、20歳代、30歳代、40歳代及び70歳以上については、サンプル数が10名未満のためコメントでは触れないことにする。「消費生活センター」（50歳代46.2%、60歳代50.0%）、「その他の機関」（50歳代23.1%、60歳代41.7%）ともに、60歳代が50歳代を上回り、特に「その他の機関」では18.6ポイント差であった。「自己解決」（50歳代30.8%、60歳代33.3%）は、ともに3割を上回っている。
- ◇ 居住年数別では、居住年数1年未満から30年未満については、サンプル数が10未満のためコメントでは触れず、30年以上のみを見ていく。30年以上では、「消費生活センター」及び「自己解決」がともに37.8%と4割弱を占め、「その他の機関」（29.7%）が約3割を占めている。
- ◇ 職業別では、会社員以外の職業層はサンプル数が10未満のためコメントでは触れず、会社員のみを見ていく。会社員では「自己解決」（50.0%）が最も多く、5割を占めた。次いで「消費生活センター」（37.5%）、「その他の機関」（18.8%）と続いた。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると（小倉北区と八幡西区以外の5区はサンプル数が10未満のため、コメントでは触れないことにする）、「消費生活センター」は小倉北区（58.3%）が八幡西区（27.3%）を31.0ポイント上回り、一方、「その他の機関」では八幡西区（45.5%）が小倉北区（25.0%）を20.5ポイント上回り、地区により差が見られた。なお、「自己解決」（小倉北区25.0%、八幡西区27.3%）では地区による大きな差は見られなかった。  
なお、行政区を18地区に細分化したところ、全ての地区でサンプル数が10未満のためコメントでは触れないこととする。

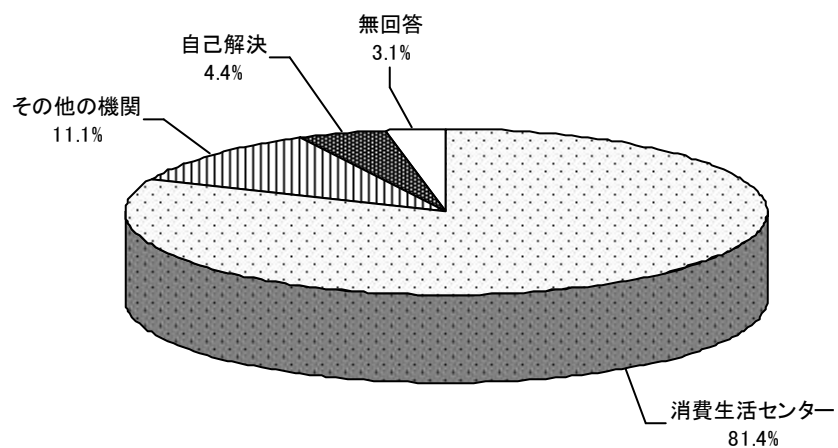
(3) 今後、消費者トラブルを抱えた場合の相談先について

問4 今後、もしもあなたが詐欺などの悪質商法や契約上のトラブルといった消費者問題や、多重債務問題を抱えた場合、まず、どこに相談しようと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

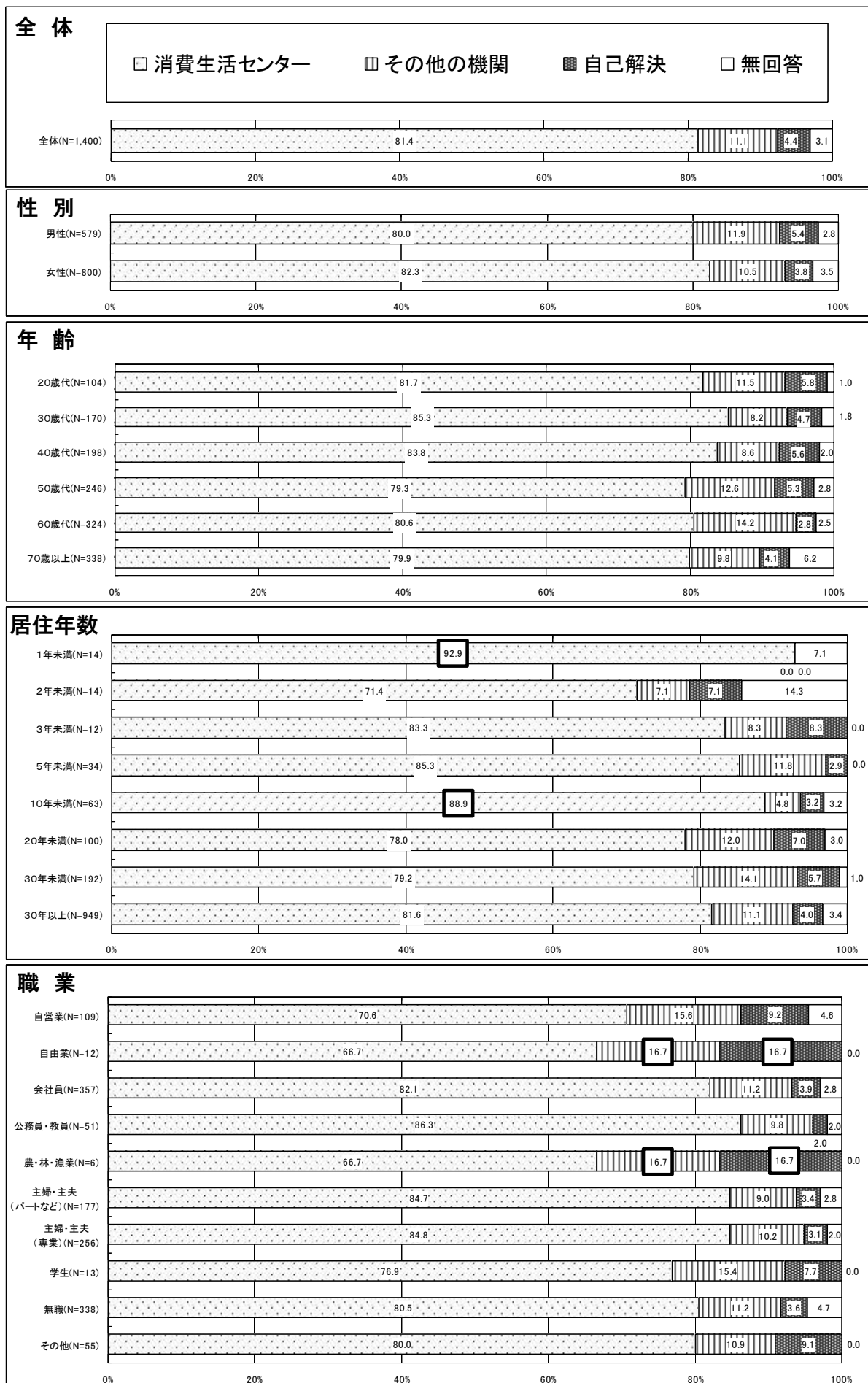
N : 1,400 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 消費生活センター	1,140	81.4
2 その他の機関	155	11.1
3 自己解決	61	4.4
無回答	44	3.1

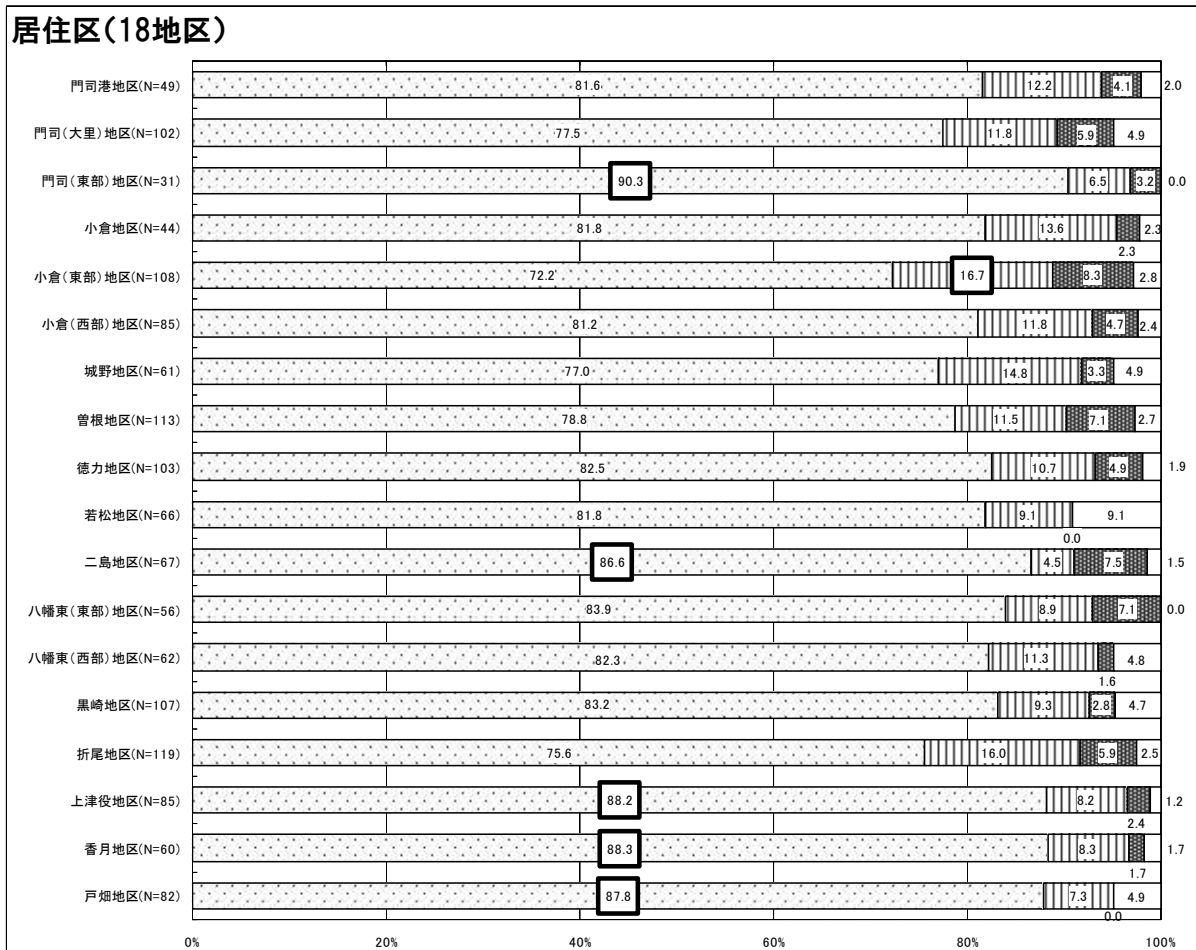
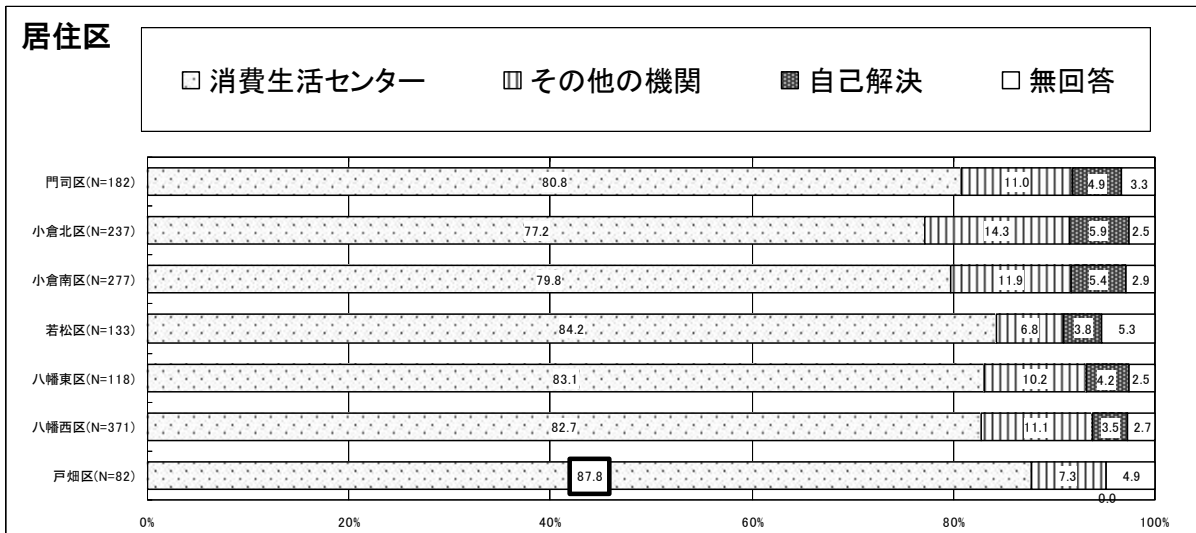
◇ 今後、もしも消費者トラブルを抱えた場合、8割強の市民がまず「消費生活センター」に相談しようと思っている。



問4 今後、消費者トラブルを抱えた場合の相談先について



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

### 今後、消費者トラブルを抱えた場合の相談先について

#### 【全体的傾向】

次に、もしも悪質商法や消費者問題、多重債務問題などの消費者トラブルを抱えた場合、まず、どこに相談するか尋ねてみた。

その結果、「消費生活センター」が81.4%と8割強を占め、副問3-1と同じく最も多かった。次いで「その他の機関」(11.1%)と続き、「自己解決」を選んだ人は4.4%にとどまった。

なお、「その他の機関」（155人）には以下の機関が主に挙げられた。

- 弁護士
- 司法書士
- 警察
- 法テラス

#### 【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、「消費生活センター」は女性（82.3%）が男性（80.0%）をやや上回ったが、男女とも8割を上回った。また、「自己解決」は男性（5.4%）が女性（3.8%）をやや上回った。
- ◇ 年齢別では、「消費生活センター」は30歳代（85.3%）で最も多く、50歳代（79.3%）で最も少なかったが、その差は6.0ポイントと大きな差は見られなかった。「その他の機関」は60歳代（14.2%）で最も多く、次いで50歳代（12.6%）、20歳代（11.5%）と続き、これらの層で1割を上回った。「自己解決」は20歳代（5.8%）で最も多く、次いで40歳代（5.6%）、50歳代（5.3%）と続き、これらの層は5%台であった。
- ◇ 居住年数別では、「消費生活センター」は1年未満（92.9%）で最も多く、次いで10年未満（88.9%）、5年未満（85.3%）と続いた。2年未満（71.4%）で最も少なく、他の層に比べて僅かながら割合が低い傾向が見られた。「その他の機関」は、30年未満（14.1%）で最も多く、最も少ない10年未満（4.8%）のみ5%を下回った。「自己解決」は、3年未満（8.3%）で最も多く、次いで2年未満（7.1%）、20年未満（7.0%）と続いた。
- ◇ 職業別では、「消費生活センター」は公務員・教員（86.3%）で最も多く、最も少ない自由業（66.7%）、自営業（70.6%）、学生（76.9%）以外の全ての職業層で8割以上となった。「その他の機関」は自由業（16.7%）で最も多く、主婦・主夫（パートなど）（9.0%）で最も少なかったが、その差は7.7ポイントと大きな差は見られなかった。「自己解決」は、自由業（16.7%）のみ1割を上回った。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「消費生活センター」は戸畑区（87.8%）で最も多く、小倉北区（77.2%）で最も少なく、その差は10.6ポイントと若干居住区による差が見られた。なお、「その他の機関」は小倉北区（14.3%）で最も多く、若松区（6.8%）を除く全ての区で1割を上回った。「自己解決」は小倉北区（5.9%）と小倉南区（5.4%）で5%を上回り、最も少ない戸畑区は0.0%であった。

行政区を18地区に細分化して見ると、「消費生活センター」は門司（東部）地区（90.3%）で最も多く、唯一9割を上回った。一方、最も少なかったのは小倉（東部）地区（72.2%）で、次いで折尾地区（75.6%）、城野地区（77.0%）、門司（大里）地区（77.5%）、曾根地区（78.8%）と続き、これら5地区で8割を下回った。「その他の機関」は、小倉（東部）地区（16.7%）で最も多く、次いで折尾地区（16.0%）、城野地区（14.8%）と続いた。「自己解決」も小倉（東部）地区（8.3%）で最も多く、次いで二島地区（7.5%）、曾根地区及び八幡東（東部）地区（ともに7.1%）、門司（大里）地区及び折尾地区（ともに5.9%）と続き、これらの6地区で5%を上回った。



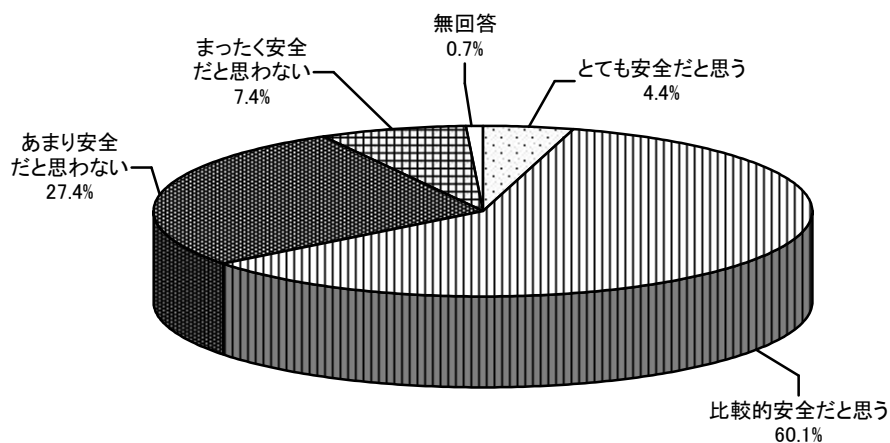
(4) まちの治安について

問5 あなたのお住まいの地域は、安全なまち（治安が良い）と思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

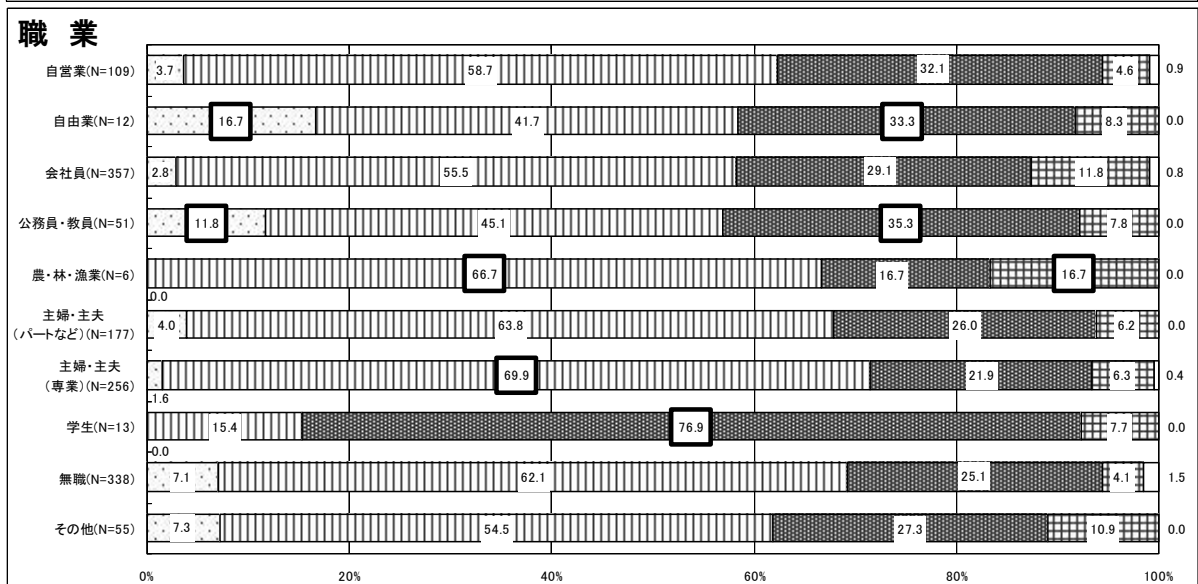
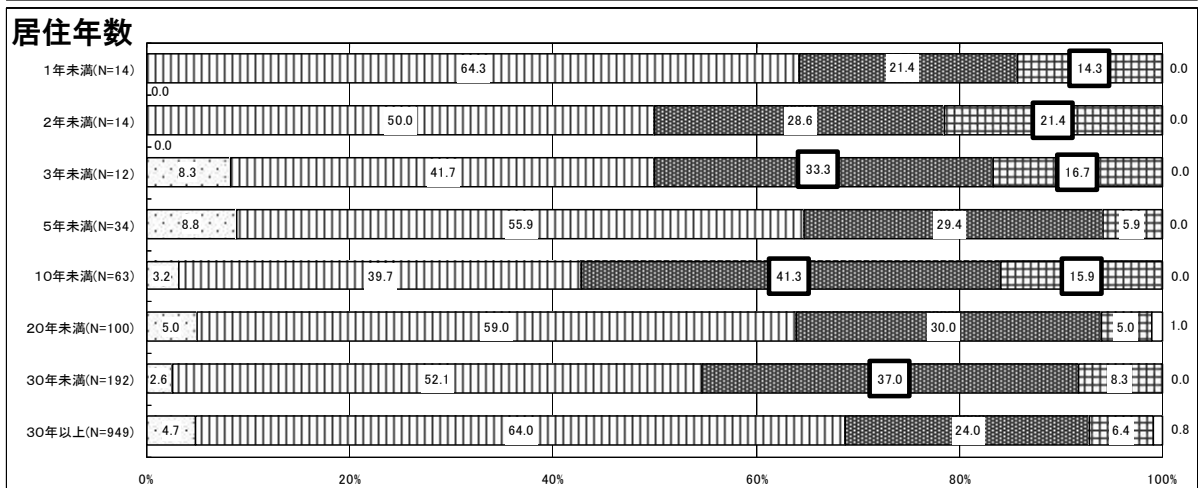
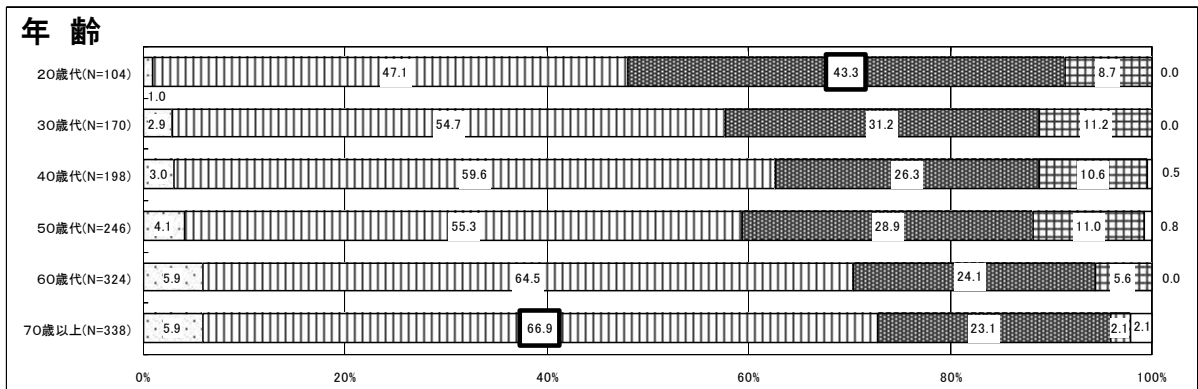
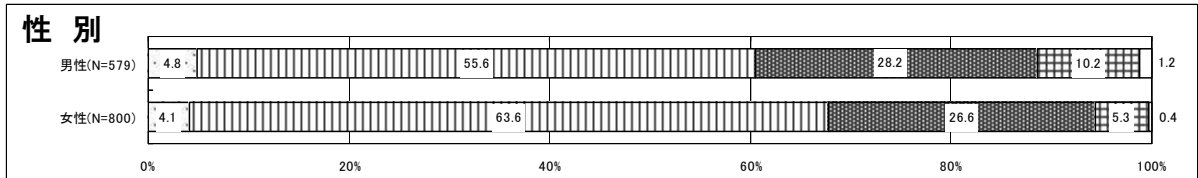
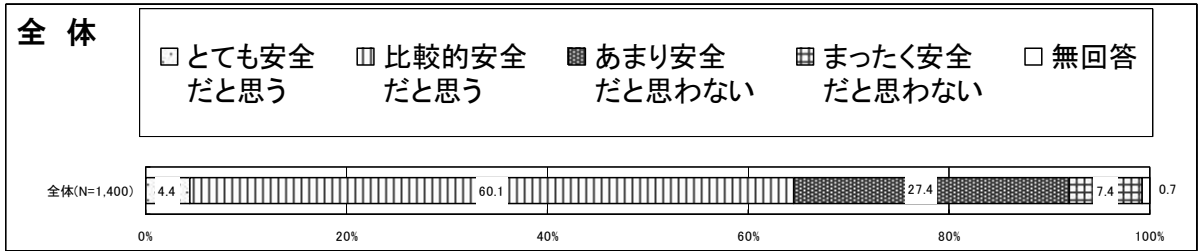
N : 1,400 人

項目	回答数（人）	割合（%）
1 とても安全だと思う	61	4.4
2 比較的安全だと思う	842	60.1
3 あまり安全だと思わない	384	27.4
4 まったく安全だと思わない	103	7.4
無回答	10	0.7

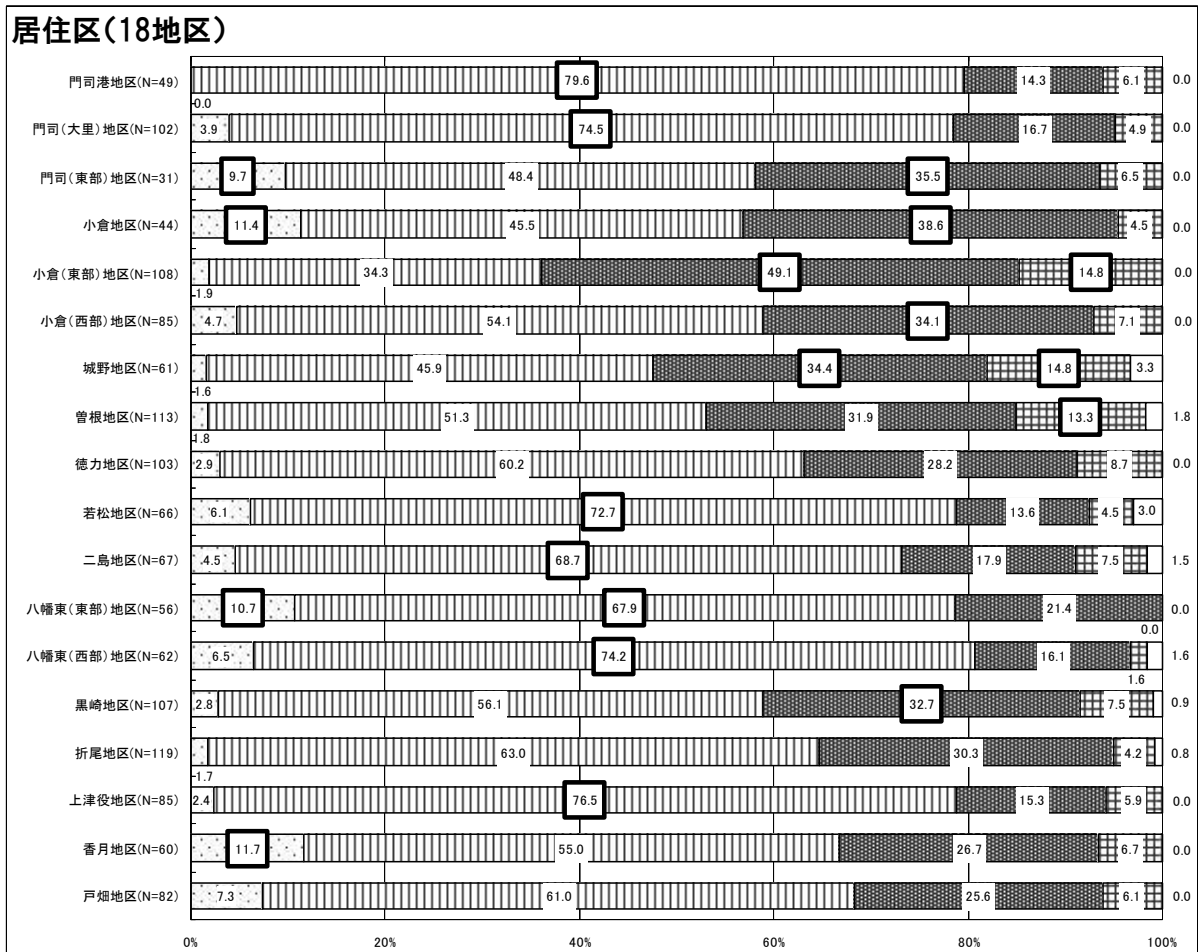
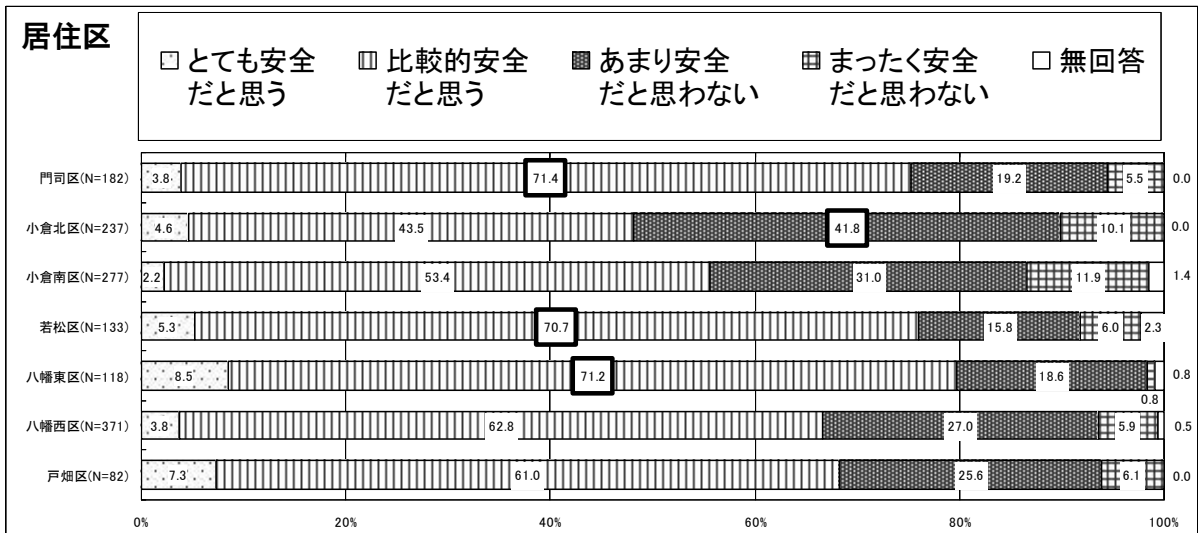
◇ 住んでいる地域の治安について、約6割の市民が「比較的安全だと思う」。



問5 まちの治安について



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

## まちの治安について

### 【全体的傾向】

次に、住んでいる地域が、安全なまち(治安が良い)だと思うかどうかを尋ねてみた。

設問に対する結果は、肯定的意見である「比較的安全だと思う」(60.1%)が最も多く、次いで、否定的意見である「あまり安全だと思わない」(27.4%)と続いた。積極的肯定意見の「とても安全だと思う」(4.4%)と肯定的意見の「比較的安全だと思う」を合わせた「肯定派」は64.5%

なった。一方、強い否定意見の「まったく安全だと思わない」(7.4%)と否定的意見の「あまり安全だと思わない」と合わせた「否定派」は34.8%となり、3人に1人の割合となった。

#### 【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、男女とも「比較的安全だと思う」(男性55.6%、女性63.6%)が最も多く、女性が男性を上回っている。「肯定派」(男性60.4%、女性67.7%)も女性が男性を上回り、女性の方が比較的地域の治安が良いと思っている割合が高かった。一方、「まったく安全だと思わない」は、男性(10.2%)が女性(5.3%)を上回った。
- ◇ 年齢別では、「比較的安全だと思う」は、70歳以上(66.9%)で最も多く、最も少ない20歳代(47.1%)との差は19.8ポイントで、ほぼ年齢が高くなるにつれ割合が増えている。「肯定派」の割合は、20歳代(48.1%)→30歳代(57.6%)→40歳代(62.6%)→50歳代(59.4%)→60歳代(70.4%)→70歳以上(72.8%)と推移しており、こちらもほぼ年齢が高くなるにつれ割合が増えている。「否定派」は、20歳代(52.0%)で最も多く、70歳以上(25.2%)で最も少なかった。また、20歳代のみ「否定派」が「肯定派」を上回った。「まったく安全だと思わない」は、30歳代(11.2%)で最も多く、次いで50歳代(11.0%)、40歳代(10.6%)と続き、これらの層で1割を上回った。
- ◇ 居住年数別では、「肯定派」は30年以上(68.7%)で最も多く、次いで5年未満(64.7%)、1年未満(64.3%)と続いた。最も少ないのは10年未満(42.9%)で、唯一5割を下回った。「否定派」は10年未満(57.2%)で最も多く、次いで2年未満及び3年未満(ともに50.0%)と続き、これらの居住年数層で5割以上となった。「まったく安全だと思わない」は、2年未満(21.4%)で最も多く、次いで、3年未満(16.7%)、10年未満(15.9%)、1年未満(14.3%)と続き、これらの居住年数層で1割を上回り、居住年数の短い層で比較的多かった。
- ◇ 職業別では、「肯定派」は主婦・主夫(専業)(71.5%)で最も多く、次いで、無職(69.2%)、主婦・主夫(パートなど)(67.8%)と続いた。最も少なかったのは学生(15.4%)で、次に少ない公務員・教員(56.9%)と41.5ポイント差と、突出して割合が少なかった。「否定派」は、学生(84.6%)で最も多く、次いで公務員・教員(43.1%)、自由業(41.6%)と続いた。「まったく安全だと思わない」は、会社員(11.8%)とその他(10.9%)で1割を上回った。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「肯定派」は、八幡東区(79.7%)で最も多く、次いで若松区(76.0%)、門司区(75.2%)と続き、この3区で7割を上回った。最も少なかったのは小倉北区(48.1%)で、唯一5割を下回った。「否定派」は小倉北区(51.9%)で最も多く、次いで小倉南区(42.9%)と八幡西区(32.9%)と続き、小倉北区や小倉南区で比較的多かった。「あまり安全だと思わない」は小倉北区(41.8%)で最も多く、次いで小倉南区(31.0%)、八幡西区(27.0%)と続いた。「まったく安全だと思わない」は小倉南区(11.9%)で最も多く、次いで小倉北区(10.1%)と、この2区で1割を上回った。

行政区を18地区に細分化して見ると、「肯定派」は、八幡東(西部)地区(80.7%)で最も多く、次いで、門司港地区(79.6%)、上津役地区(78.9%)、若松地区(78.8%)、八幡東(東部)地区(78.6%)、門司(大里)地区(78.4%)、二島地区(73.2%)と続き、これら7地区は7割を上回った。八幡東区と若松区は区内の2地区とも7割を上回り、区内全体で「肯定派」が比較的多かった。一方、「否定派」は、小倉(東部)地区(63.9%)で最も多く、次いで城野地区(49.2%)、曾根地区(45.2%)と続いた。特に小倉(東部)地区は、次に多い城野地区を14.7ポイント上回り、突出していた。「まったく安全だと思わない」は、小倉(東部)地区及び城野地区(ともに14.8%)で最も多く、次いで曾根地区(13.3%)と続き、これら3地区で

1割を上回った。

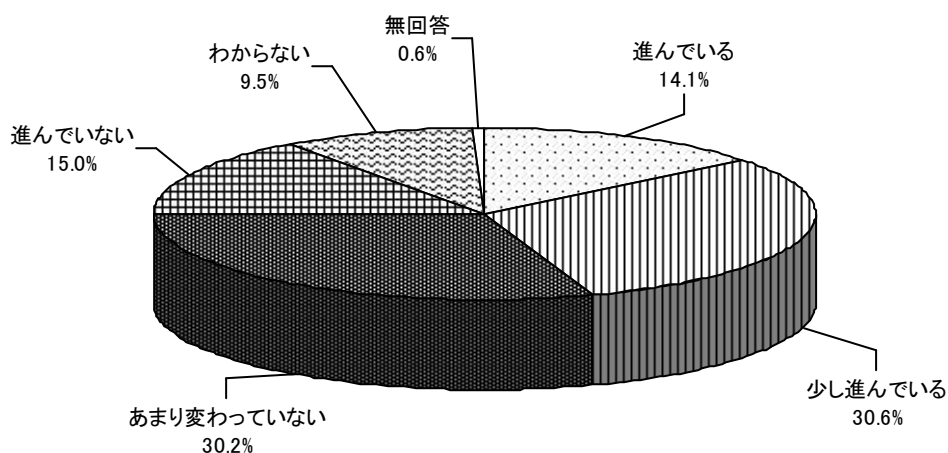
(5) 暴力追放対策の進捗について

問6 北九州市では、警察・市民等と連携し、暴力追放運動に積極的に取り組んでいます。あなたは、北九州市の暴力追放対策が、以前と比べ進んでいると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

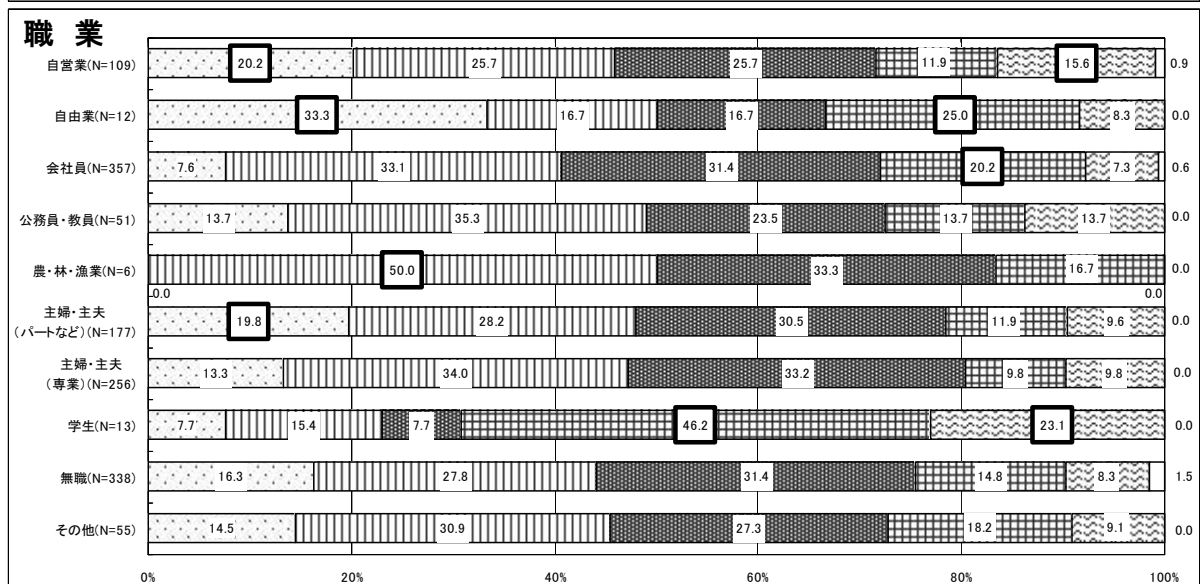
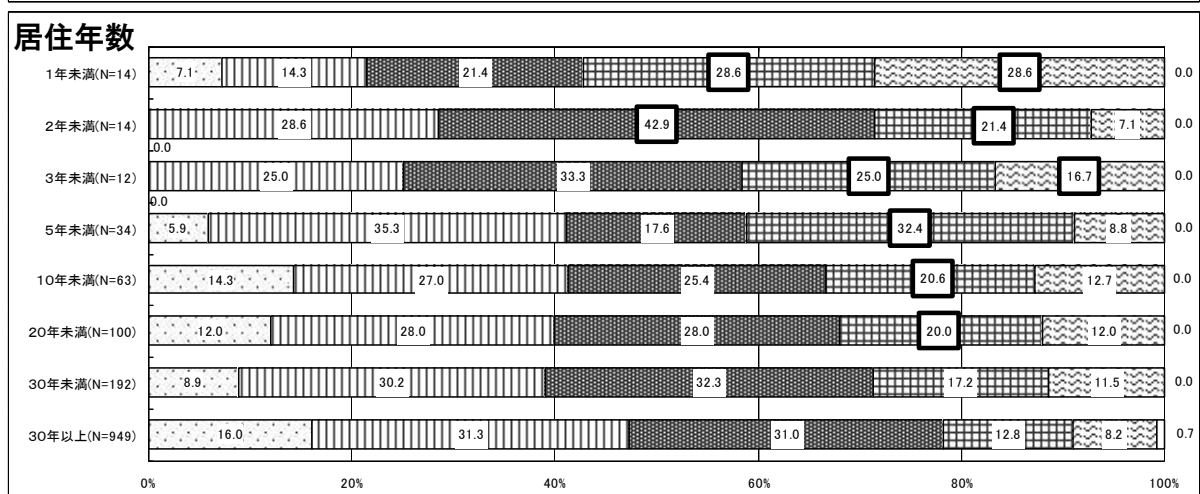
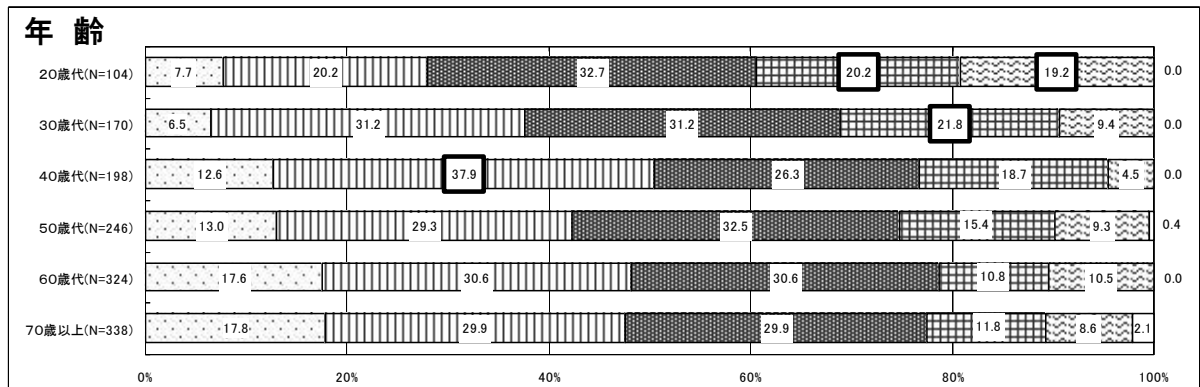
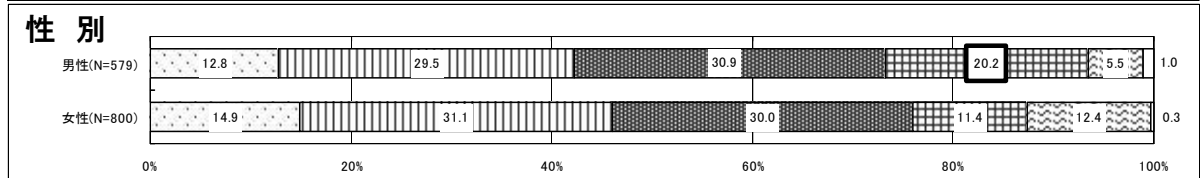
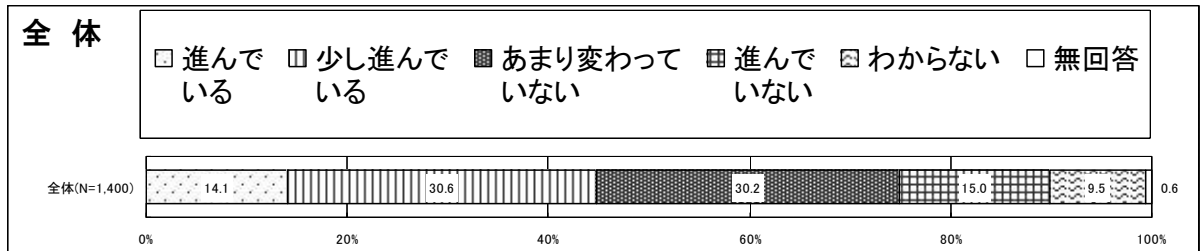
N : 1,400人

項目	回答数(人)	割合(%)
1 進んでいる	198	14.1
2 少し進んでいる	428	30.6
3 あまり変わっていない	423	30.2
4 進んでいない	210	15.0
5 わからない	133	9.5
無回答	8	0.6

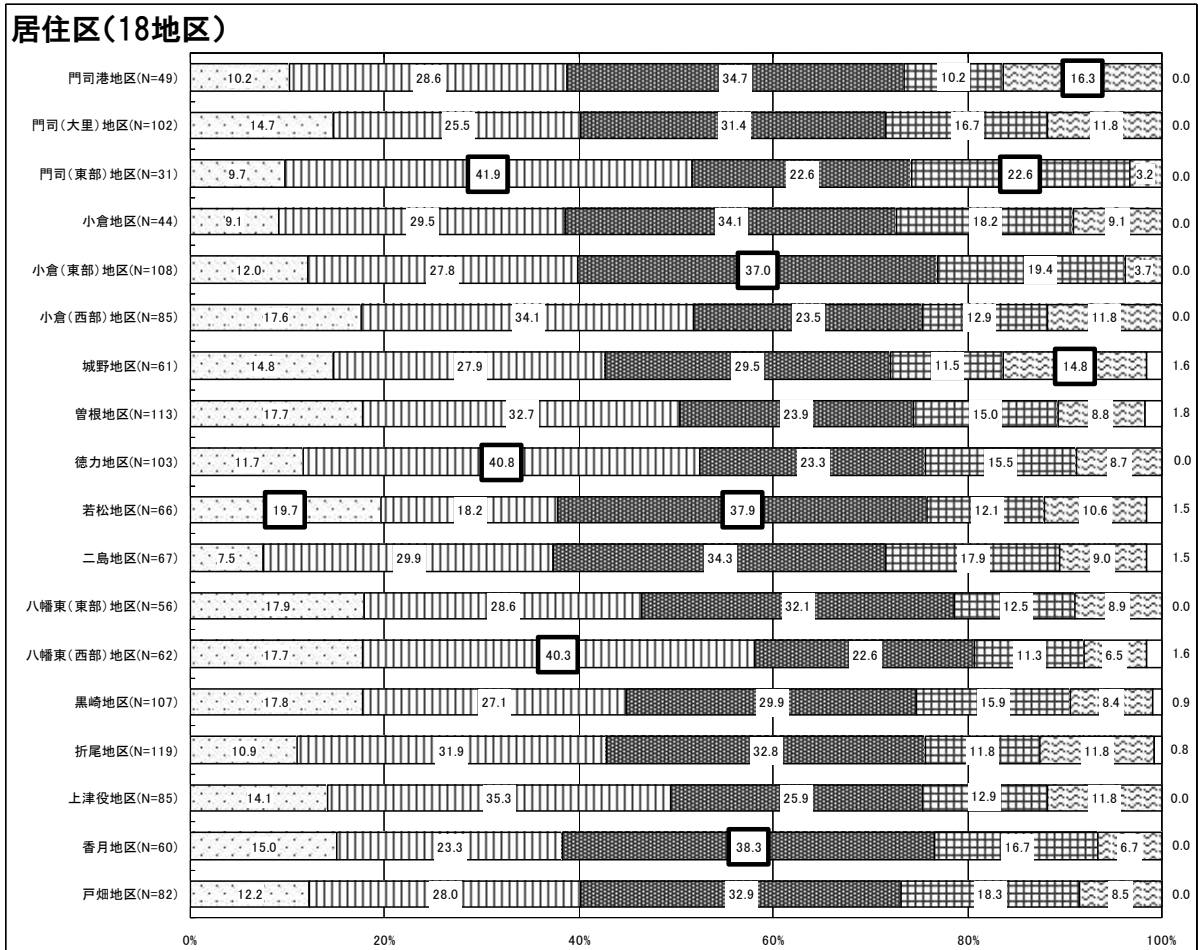
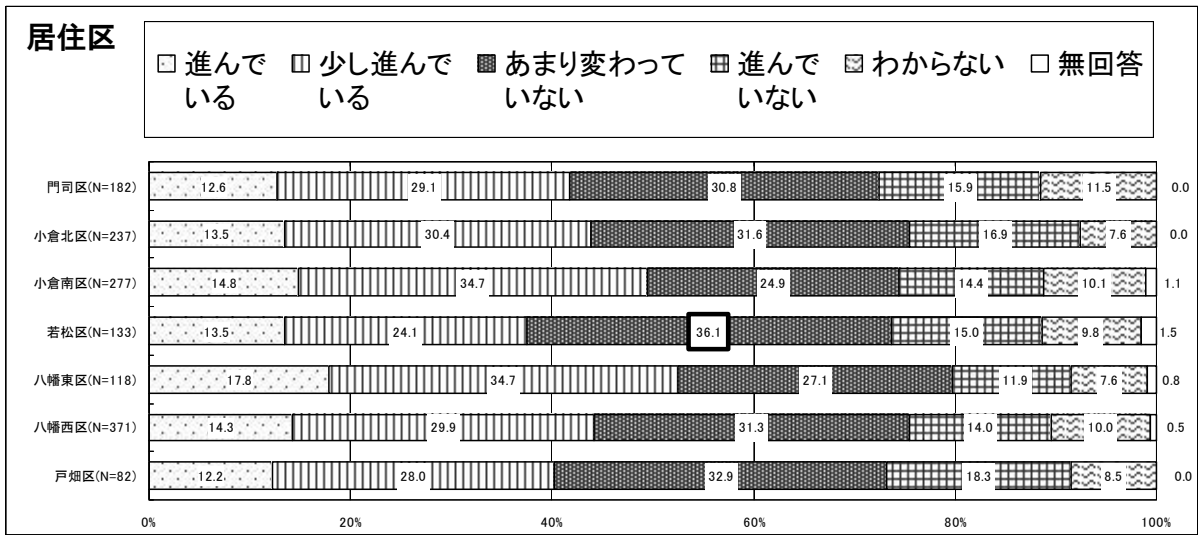
◇ 暴力追放対策が以前と比べて、「少し進んでいる」(30.6%)と思う市民が約3割、僅差で「あまり変わっていない」(30.2%)と思う市民も約3割いる。



問6 暴力追放対策の進捗について



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

## 暴力追放対策の進捗について

### 【全体的傾向】

この設問では、市の暴力追放対策が以前と比べて進んでいると思うかについて、尋ねてみた。

その結果、「少し進んでいる」が最も多く、30.6%となった。僅差で「あまり変わっていない」が30.2%で続いた。積極的肯定意見の「進んでいる」(14.1%)と肯定意見の「少し進んでいる」を合わせた「肯定派」は44.7%、否定意見の「あまり変わっていない」と強い否定意見の「進ん



でない」(15.0%)を合わせた「否定派」は45.2%と、ほぼ半数ずつに回答が分かれた。なお、「わからない」は9.5%となった。

#### 【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、男性は「あまり変わっていない」が30.9%で最も高く、女性は「少し進んでいる」が31.1%で最も高かった。「肯定派」は、女性(46.0%)が男性(42.3%)を上回り、「否定派」は男性(51.1%)が女性(41.4%)を上回った。また、「進んでいない」は、男性(20.2%)が女性(11.4%)を上回り、男性のうち5人に1人が強い否定意見となっている。「わからない」は女性(12.4%)が男性(5.5%)を上回った。
- ◇ 年齢別では、「肯定派」は、20歳代(27.9%)で最も少なく、30歳代(37.7%)、40歳代(50.5%)で最も多くなり、年齢層が上がるにつれ割合が増え、50歳代以上でも4割を上回っている。「進んでいる」は70歳以上(17.8%)で最も多く、30歳代(6.5%)で最も少なく、ほぼ年齢層が上がるにつれ、割合が増えた。一方、「否定派」は、30歳代(53.0%)で最も多く、次いで20歳代(52.9%)と、若年層で5割を上回った。最も少ないのは60歳代(41.4%)であったが、全ての年齢層で4割を上回った。「進んでいない」は、30歳代(21.8%)で最も多く、次いで20歳代(20.2%)と、若年層で2割を超え、「わからない」は、20歳代(19.2%)で最も多かった。
- ◇ 居住年数別では、「肯定派」は30年以上(47.3%)で最も多く、次いで10年未満(41.3%)、5年未満(41.2%)、20年未満(40.0%)と続き、これらの層で4割以上を占めた。「進んでいる」は、30年以上(16.0%)で最も多く、次いで10年未満(14.3%)、20年未満(12.0%)と続いた。一方、「否定派」は2年未満(64.3%)で最も多く、次いで3年未満(58.3%)、1年未満及び5年未満(50.0%)と続き、これらの層で5割以上を占めた。なお、1年未満は居住年数が短く、過去との比較が難しいためか、「わからない」(28.6%)も比較的割合が多かった。
- ◇ 職業別は、「肯定派」は自由業(50.0%)で最も多く、5割を占めた。最も少ないのは学生(23.1%)で、それ以外の全ての職業層で4割を上回った。「進んでいる」は自由業(33.3%)で最も多く、次いで、自営業(20.2%)、主婦・主夫(パートなど)(19.8%)と続いた。一方、「否定派」は学生(53.9%)と会社員(51.6%)で多く、各層の「肯定派」を上回った。「進んでいない」も学生(46.2%)で突出して高く、次いで自由業(25.0%)、会社員(20.2%)と続いた。「わからない」は、学生(23.1%)で最も多く、次いで自営業(15.6%)、公務員・教員(13.7%)と続いた。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「肯定派」は八幡東区(52.5%)で最も多く、唯一5割を上回った。最も少ないのは若松区(37.6%)で、この区のみが4割を下回った。「進んでいる」も八幡東区(17.8%)で最も多く、戸畑区(12.2%)で最も少なかったが、地区による大きな差は見られなかった。一方、「否定派」は戸畑区(51.2%)と若松区(51.1%)で多く、5割を上回った。「進んでいない」は戸畑区(18.3%)で最も多く、八幡東区(11.9%)が最も少なかったが、地区による大きな差は見られなかった。

行政区を18地区に細分化して見ると、「肯定派」は八幡東(西部)地区(58.1%)で最も多く、次いで徳力地区(52.5%)、小倉(西部)地区(51.7%)と続いた。「進んでいる」は、若松地区(19.7%)で最も多く、二島地区(7.5%)で最も少なく、若松区内で傾向が分かれた。「否定派」は、小倉(東部)地区(56.5%)や香月地区(55.0%)で多く見られ、八幡東(西部)地区(33.9%)で最も少なかった。「進んでいない」は、門司(東部)地区(22.6%)で最も多く、唯一2割を上回った。「わからない」は門司港地区(16.3%)で最も多かった。

(6) 平和に対する取組みについて

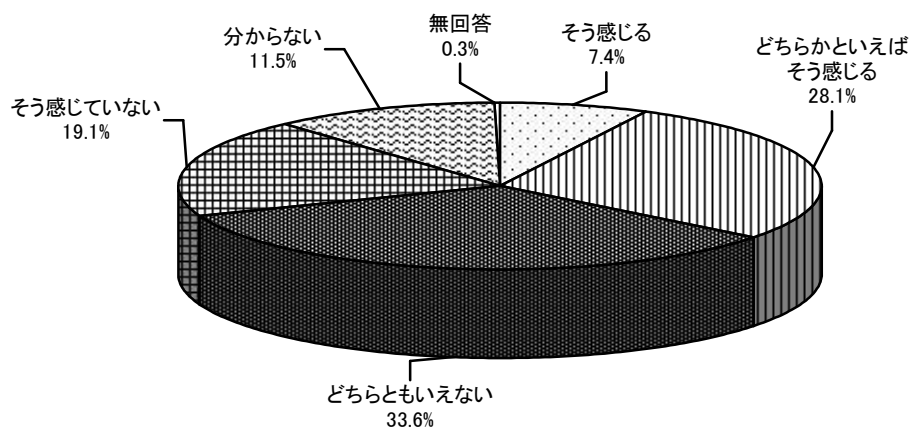
問7 北九州市は平和の尊さを次の世代に伝えるために、様々な取組みを行っていますが、北九州市の平和への取組みは充実していると感じますか。次の中から1つだけ選んでください。

N : 1,400人

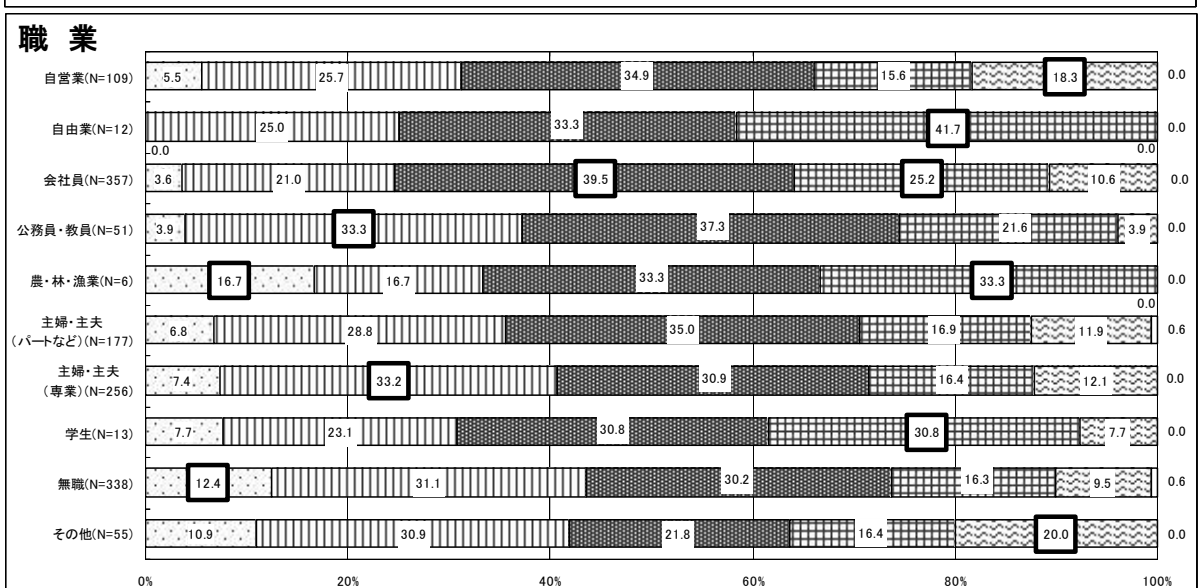
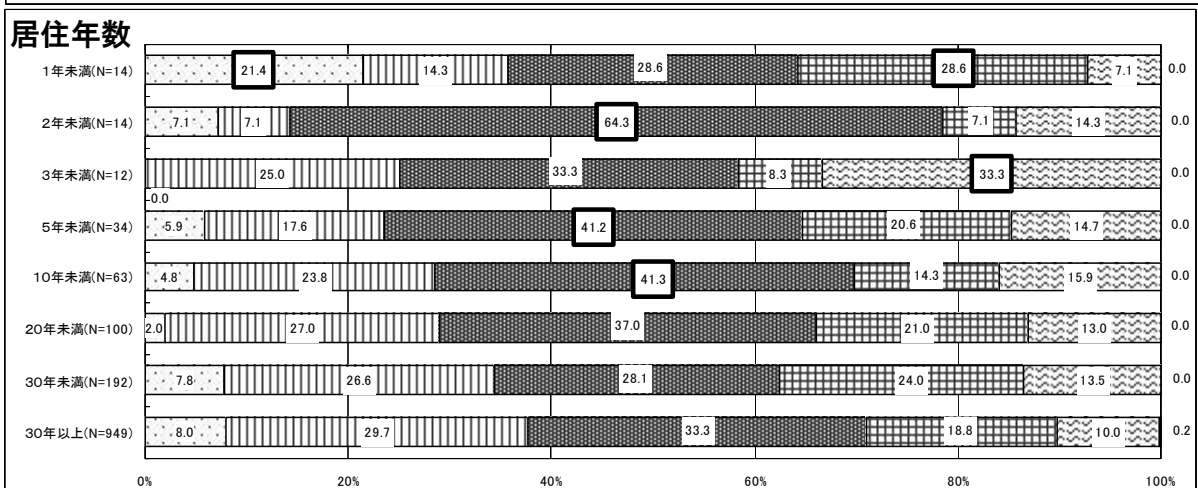
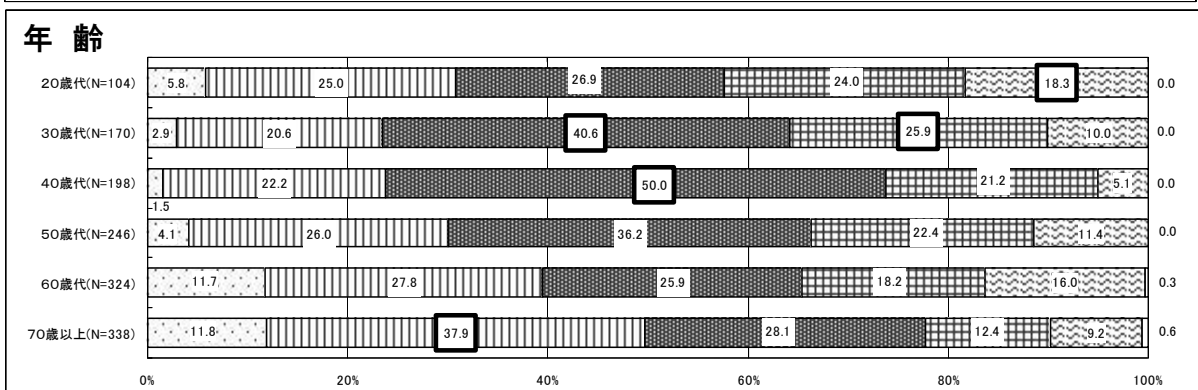
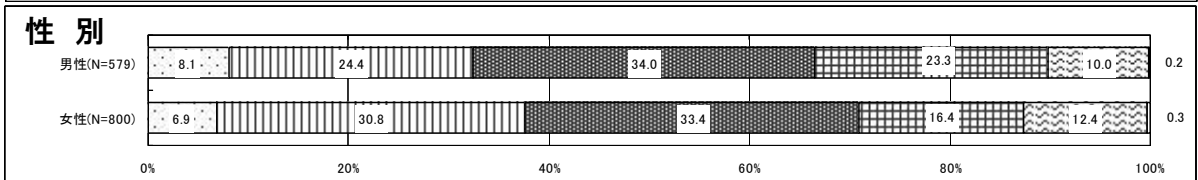
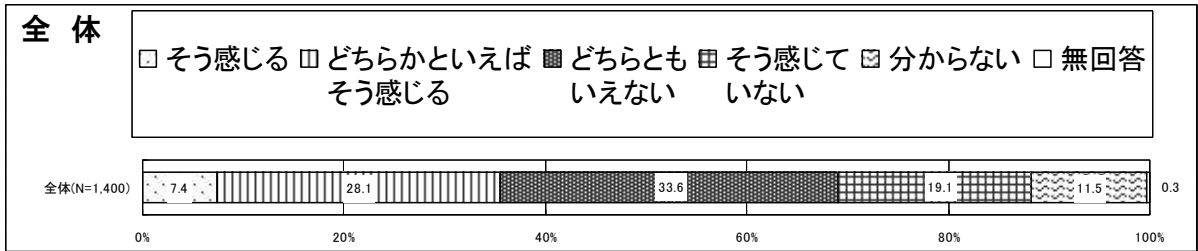
項目	回答数(人)	割合(%)
1 そう感じる	103	7.4
2 どちらかといえばそう感じる	394	28.1
3 どちらともいえない	470	33.6
4 そう感じていない	268	19.1
5 分からない	161	11.5
無回答	4	0.3

◇ 北九州市の平和への取組みが充実していると感じるかは、「どちらともいえない」(33.6%)が最も多く、3人に1人の割合。

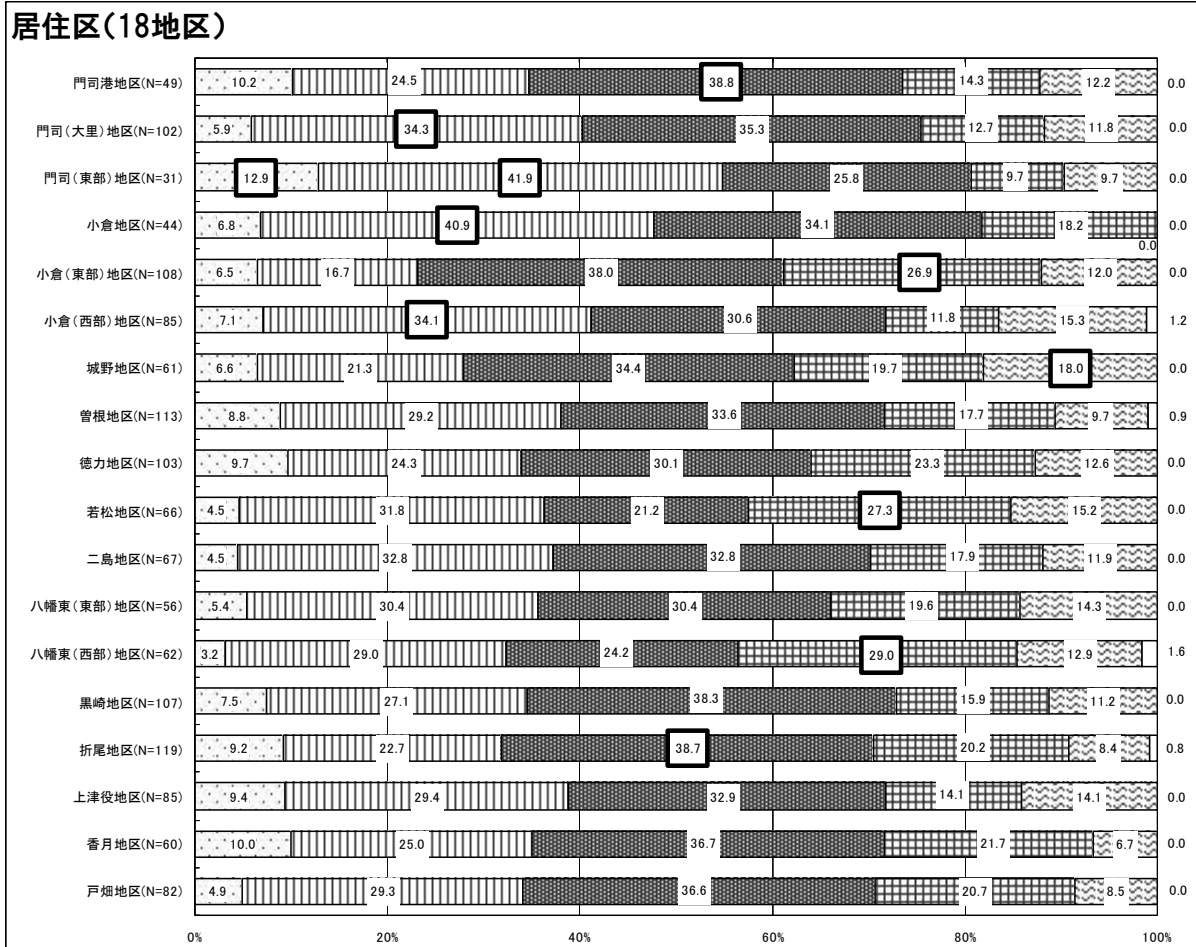
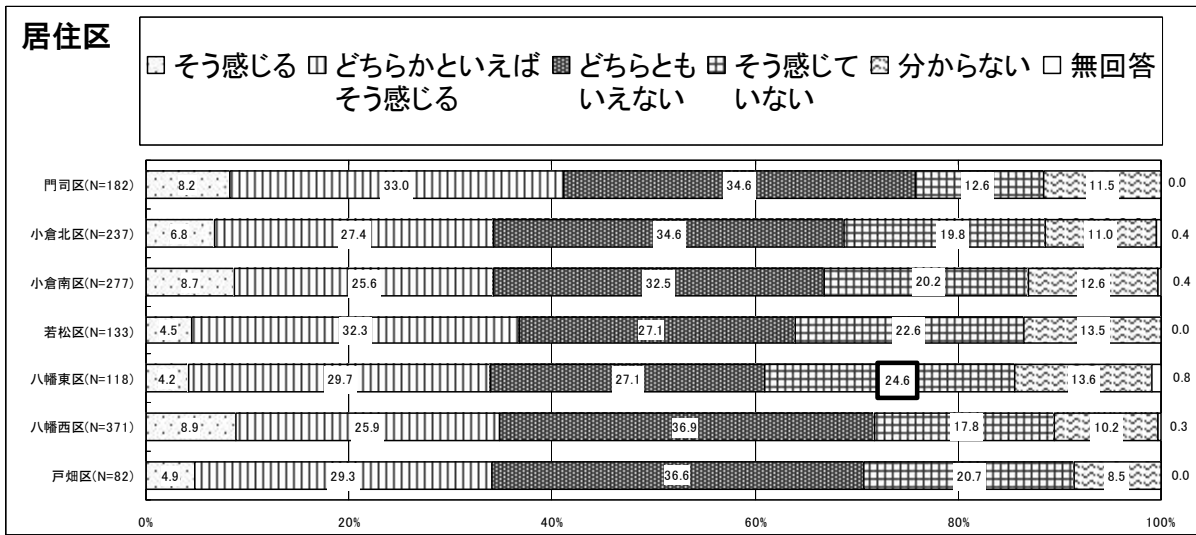
◇ 「そう感じる」と「どちらかといえばそう感じる」を合わせた「肯定派」は35.5%。



問7 平和に対する取組みについて



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

### 平和に対する取組みについて

#### 【全体的傾向】

市の平和への取組みは充実していると感じるかについて、尋ねてみた。

その結果は、「どちらともいえない」が33.6%と最も多く、3人に1人の割合となった。次いで、肯定意見の「どちらかといえばそう感じる」が28.1%、否定意見の「そう感じていない」が19.1%と続いた。肯定意見の「どちらかといえばそう感じる」と、強い肯定意見の「そう感じる」

(7.4%)を合わせると、「肯定派」は35.5%となった。判断保留の「分からない」は11.5%であった。

#### 【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、男女共に「どちらともいえない」（男性34.0%、女性33.4%）が最も多く、ほぼ同率であった。「肯定派」は女性（37.7%）が男性（32.5%）を上回り、「そう感じる」では男性（8.1%）が女性（6.9%）を上回った。一方、「そう感じていない」は、男性（23.3%）が女性（16.4%）を上回った。
- ◇ 年齢別では、「肯定派」は20歳代（30.8%）、30歳代（23.5%）と一旦少なくなり、40歳代（23.7%）以降は年齢層が上がるにつれ増加し、70歳以上（49.7%）で最も多かった。「そう感じる」は70歳以上（11.8%）で最も多く、次いで60歳代（11.7%）と、高年齢層で1割を上回っている。「どちらともいえない」は40歳代（50.0%）で最も多く、次いで30歳代（40.6%）、50歳代（36.2%）と続き、それぞれの年齢層の「肯定派」より割合が多かった。「そう感じていない」は、30歳代（25.9%）で最も多く、70歳以上（12.4%）で最も少なかった。「分からない」は、20歳代（18.3%）で最も多く、次いで60歳代（16.0%）で比較的多かった。
- ◇ 居住年数別では、「どちらともいえない」は2年未満（64.3%）で突出して多かった。「肯定派」は30年以上（37.7%）で最も多く、次いで1年未満（35.7%）、30年未満（34.4%）と続き、居住年数が長い層と短い層が混在した。「そう感じる」は1年未満（21.4%）で突出して多く、唯一2割を上回った。一方、「そう感じていない」も1年未満（28.6%）で最も多かった。「分からない」は、3年未満（33.3%）で最も多かった。
- ◇ 職業別では、「肯定派」は無職（43.5%）で最も多く、次いで、その他（41.8%）、主婦・主夫（専業）（40.6%）と続き、これらの職業層で4割を上回り、会社員（24.6%）で最も少なかった。「そう感じる」は、無職（12.4%）とその他（10.9%）のみ1割を上回り、自由業は0.0%であった。「どちらともいえない」は会社員（39.5%）で最も多かった。その他（21.8%）で最も少なかったが、その他を除く全て職業層で3割を上回った。「そう感じていない」は、自由業（41.7%）で最も多く、次いで、学生（30.8%）、会社員（25.2%）と続いた。「分からない」は、その他（20.0%）と自営業（18.3%）で比較的多かった。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「肯定派」は門司区（41.2%）が最も多く、八幡東区（33.9%）で最も少なかったが、その差は7.3ポイントと大きな差は見られなかった。「そう感じる」は、八幡西区（8.9%）、小倉南区（8.7%）、門司区（8.2%）で比較的多く見られた。「どちらともいえない」は八幡西区（36.9%）で最も多く、次いで戸畑区（36.6%）、門司区及び小倉北区（34.6%）と続いた。「そう感じていない」は、八幡東区（24.6%）で最も多く、門司区（12.6%）で最も少なかった。「分からない」は八幡東区（13.6%）で最も多く、最も少ない戸畑区（8.5%）以外の6区で1割を上回った。

行政区を18地区に細分化して見ると、「肯定派」は門司（東部）地区（54.8%）で最も多く、唯一5割を上回った。次に小倉地区（47.7%）、小倉（西部）地区（41.2%）と続いた。「そう感じる」も門司（東部）地区（12.9%）で最も多く、八幡東（西部）地区（3.2%）が最も少なかった。「どちらともいえない」は門司港地区（38.8%）、折尾地区（38.7%）、黒崎地区（38.3%）、小倉（東部）地区（38.0%）、香月地区（36.7%）、戸畑地区（36.6%）、城野地区（34.4%）の7地区で、各地区の「肯定派」より割合が多かった。また、「そう感じていない」は、八幡東（西部）地区（29.0%）で最も多く、次いで若松地区（27.3%）、小倉（東部）地区（26.9%）と続いた。「分からない」は、城野地区（18.0%）で最も多かった。

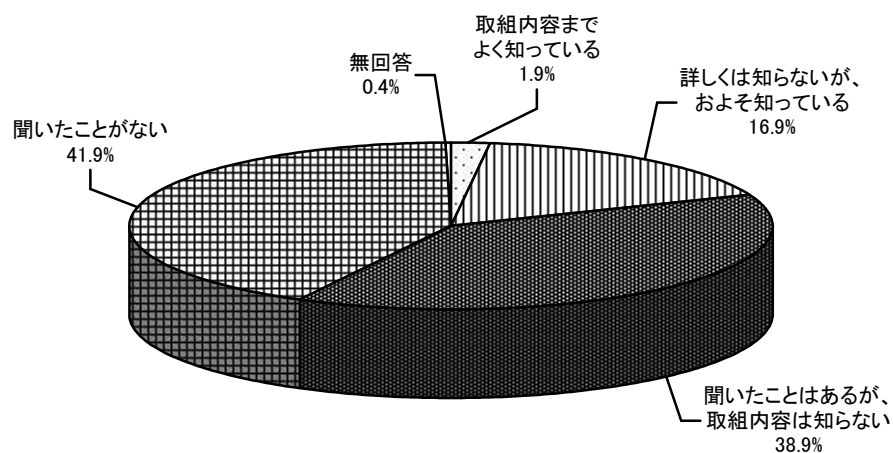
(7) 多文化共生の推進について

問8 あなたは、多文化共生という言葉や取組内容を知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

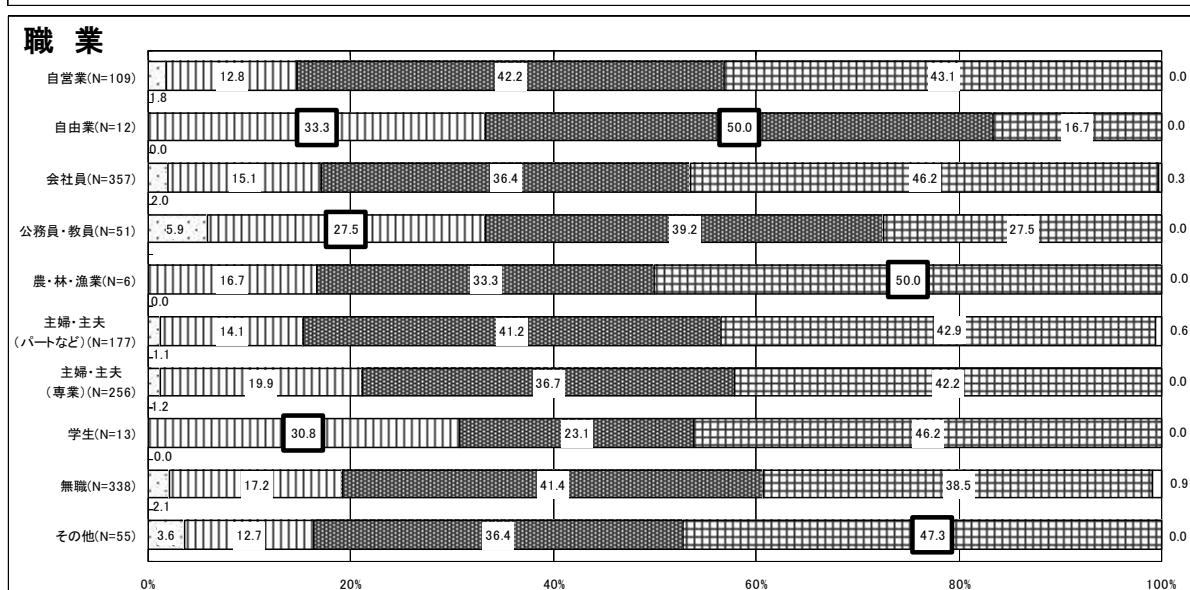
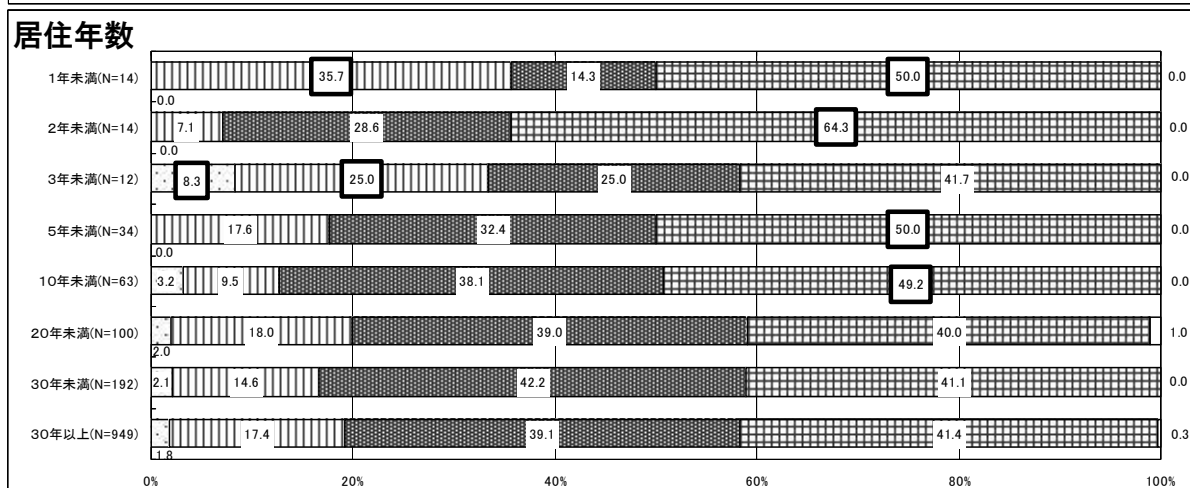
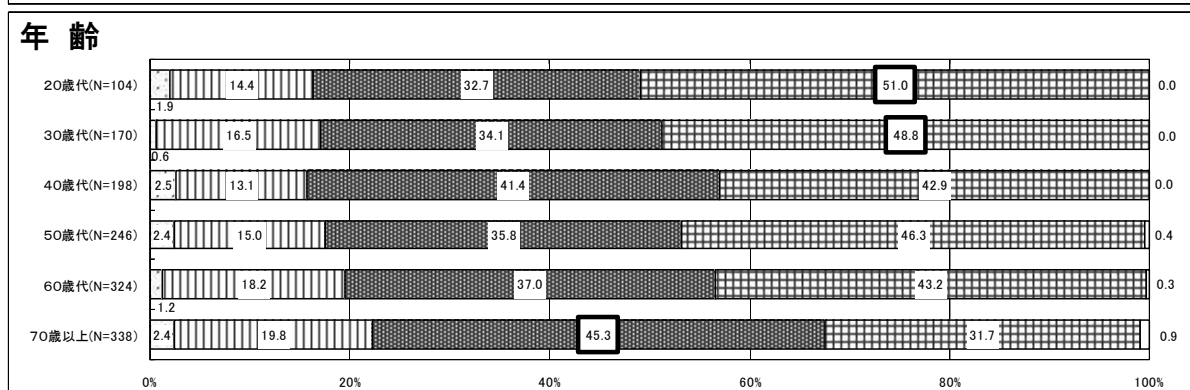
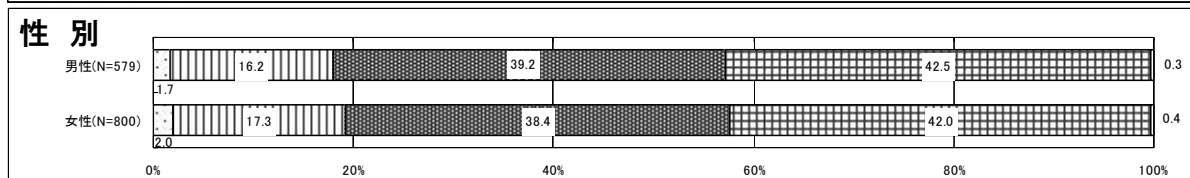
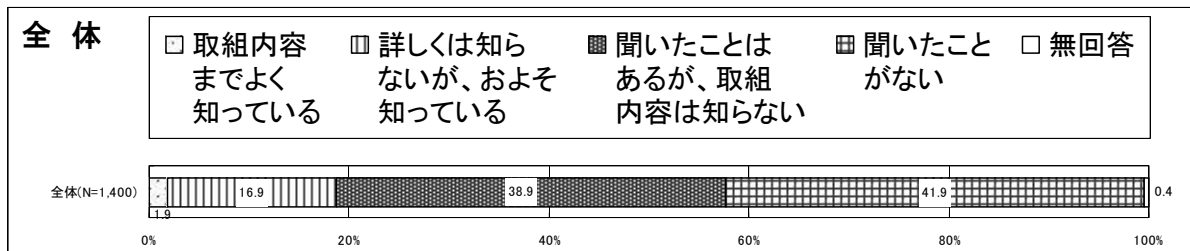
N : 1,400 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 取組内容までよく知っている	26	1.9
2 詳しくは知らないが、およそ知っている	237	16.9
3 聞いたことはあるが、取組内容は知らない	544	38.9
4 聞いたことがない	587	41.9
無回答	6	0.4

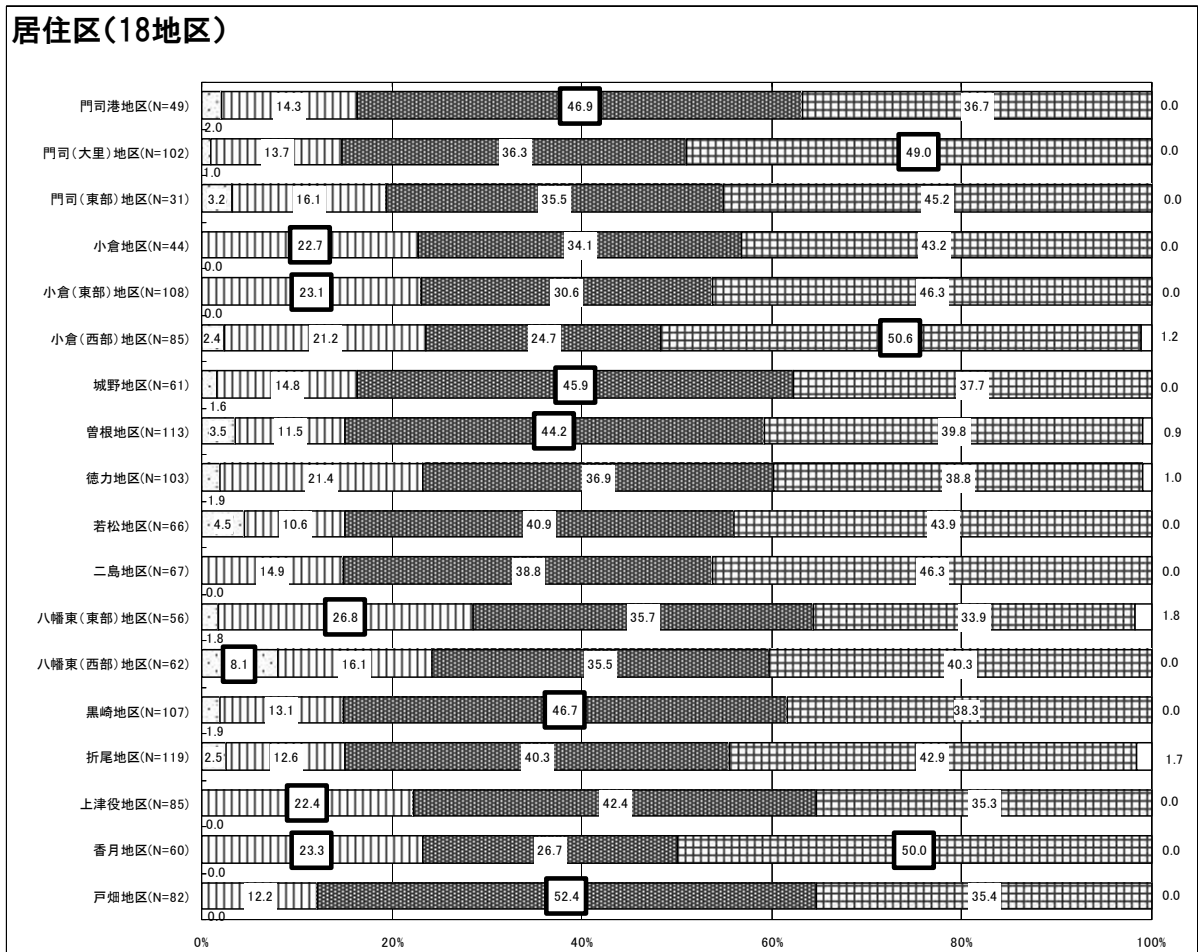
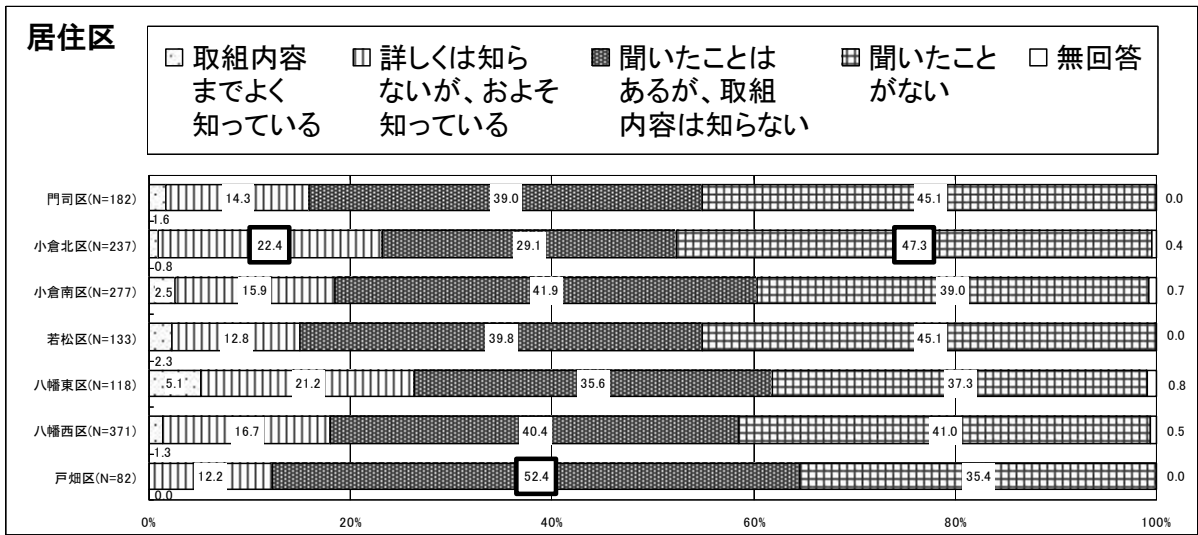
- ◇ 「聞いたことがない」を除いた「認知層」は、57.7%
- ◇ 「取組内容までよく知っている」と「詳しくは知らないが、およそ知っている」を合わせた「高認知層」は18.8%。



問8 多文化共生の推進について



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

## 多文化共生の推進について

### 【全体的傾向】

市では、外国人にとっても日本人にとっても暮らしやすい多文化共生社会の実現のために様々な取り組みを行っているが、この“多文化共生”という言葉や取組内容を知っているか尋ねてみた。

最も多かったのが、「無認知層」である「聞いたことがない」で41.9%となった。次いで、「聞



いたことはあるが、取組内容は知らない」(38.9%)、「詳しくは知らないが、およそ知っている」(16.9%)、「取組内容までよく知っている」(1.9%)と続き、これらを合わせた「認知層」は57.7%と、「無認知層」を上回った。また、「取組内容までよく知っている」と「詳しくは知らないが、およそ知っている」を合わせた回答者を「高認知層」とすると、この割合は18.8%となった。

#### 【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、男女とも「聞いたことがない」(男性42.5%、女性42.0%)の割合が最も高いが、ほとんど差は見られなかった。「認知層」(男性57.1%、女性57.7%)も、ほとんど差は見られなかった。「高認知層」は、女性(19.3%)が男性(17.9%)をやや上回った。
- ◇ 年齢別では、「聞いたことがない」は20歳代(51.0%)で最も多く、30歳代(48.8%)、40歳代(42.9%)、50歳代(46.3%)、60歳代(43.2%)、70歳以上(31.7%)と推移し、ほぼ年齢層が高くなるにつれ、割合が少なく傾向にあった。「認知層」も70歳以上(67.5%)で最も多く、30歳代から60歳代は5割台で推移し、最も少ない20歳代は49.0%であった。「高認知層」も70歳以上(22.2%)で最も多く、唯一2割を上回った。
- ◇ 居住年数別では、「認知層」は20年未満(59.0%)で最も多く、次いで30年未満(58.9%)、3年未満、及び30年以上(ともに58.3%)と続いた。最も少ない2年未満(35.7%)のみ4割を下回ったが、それ以外の層では全て5割台となっており、年数の長短による傾向は特に見られなかった。「高認知層」は、1年未満(35.7%)で最も多く、次いで3年未満(33.3%)、20年未満(20.0%)と続き、2年未満(7.1%)のみ1割を下回った。「取組内容までよく知っている」では3年未満(8.3%)のみ5%を上回り、他の層と比較して高い割合であった。
- ◇ 職業別では、「認知層」は自由業(83.0%)で突出して多く、次いで公務員・教員(72.6%)、「無職」(60.7%)と続き、最も少ない「その他」で52.7%と、全ての職業層で5割を上回った。「高認知層」は、公務員・教員(33.4%)、自由業(33.3%)、学生(30.8%)で多く、この3つの職業層で3割を上回った。「取組内容までよく知っている」でも公務員・教員(5.9%)のみ5%を上回った。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「認知層」は戸畑区(64.6%)で最も多く、次いで八幡東区(61.9%)、小倉南区(60.3%)と続き、小倉北区(52.3%)で最も少なかった。一方、「高認知層」は八幡東区(26.3%)で最も多く、次いで小倉北区(23.2%)、小倉南区(18.4%)と続き、戸畑区(12.2%)で最も少なかった。  
行政区を18地区に細分化して見ると、「認知層」は上津役地区(64.8%)で最も多く、次いで戸畑地区(64.6%)、八幡東(東部)地区(64.3%)と続いた。最も少ない小倉(西部)地区(48.3%)のみ、5割を下回った。「高認知層」は、八幡東(東部)地区(28.6%)で最も多く、次いで八幡東(西部)地区(24.2%)、小倉(西部)地区(23.6%)と続き、八幡東区は区内全体で高い割合を占めた。また、小倉北区も区内3地区の全てで2割を上回り、全体的に高い割合を占めた。最も少なかったのは、戸畑地区(12.2%)であった。

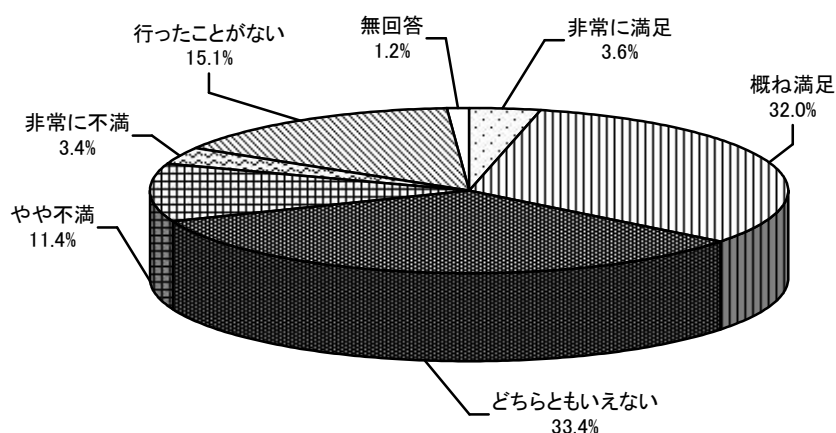
(8) 魅力ある海辺づくりについて

問9 北九州市では、海辺を舞台に憩い、学び、遊ぶことのできる魅力ある海辺づくりの取り組みを行っています。あなたは、北九州市の海辺や港について、どのように感じていますか。次の中から1つだけ選んでください。

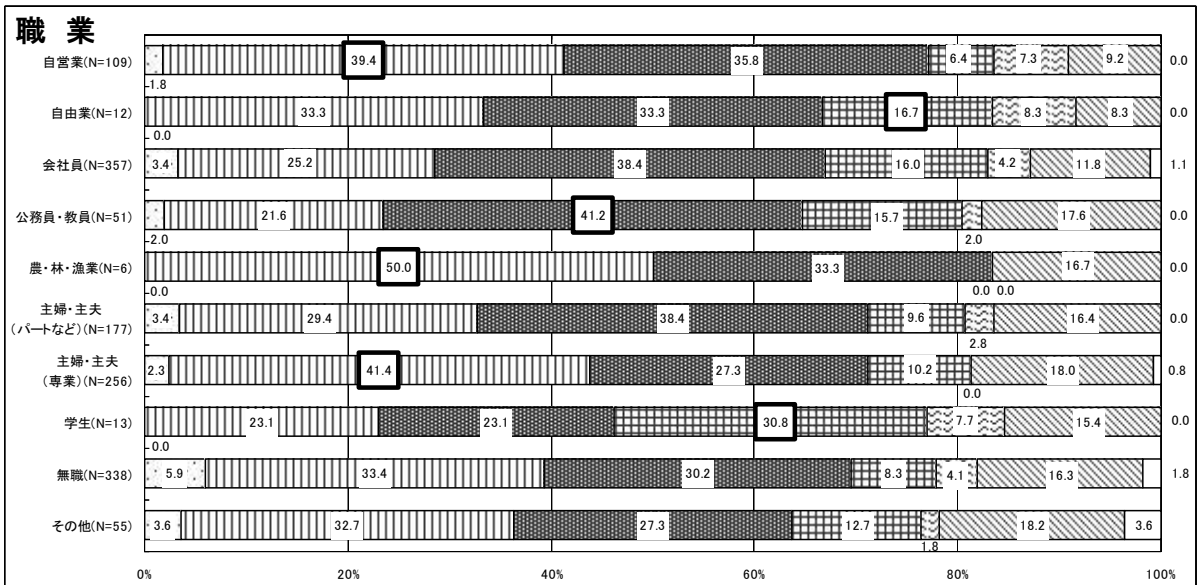
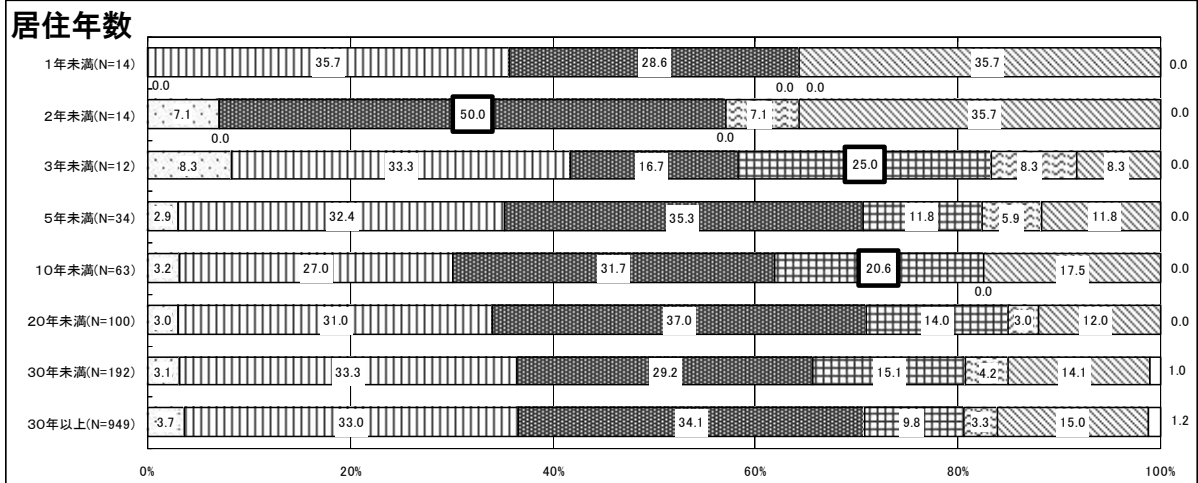
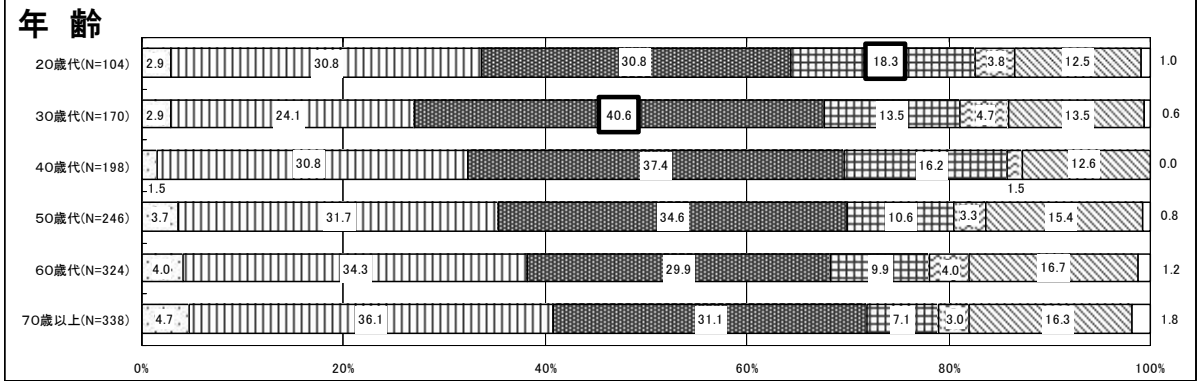
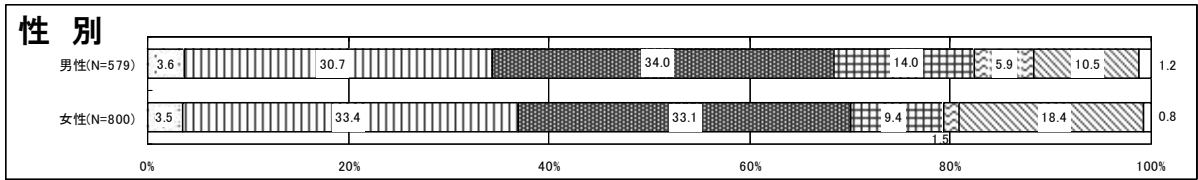
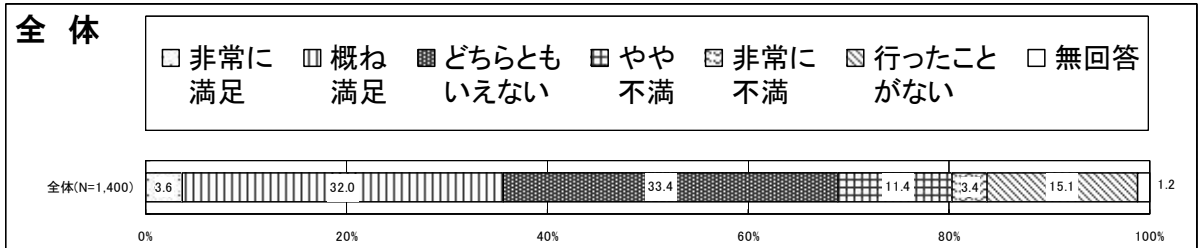
N : 1,400人

項目	回答数(人)	割合(%)
1 非常に満足	50	3.6
2 概ね満足	448	32.0
3 どちらともいえない	468	33.4
4 やや不満	159	11.4
5 非常に不満	47	3.4
6 行ったことがない	211	15.1
無回答	17	1.2

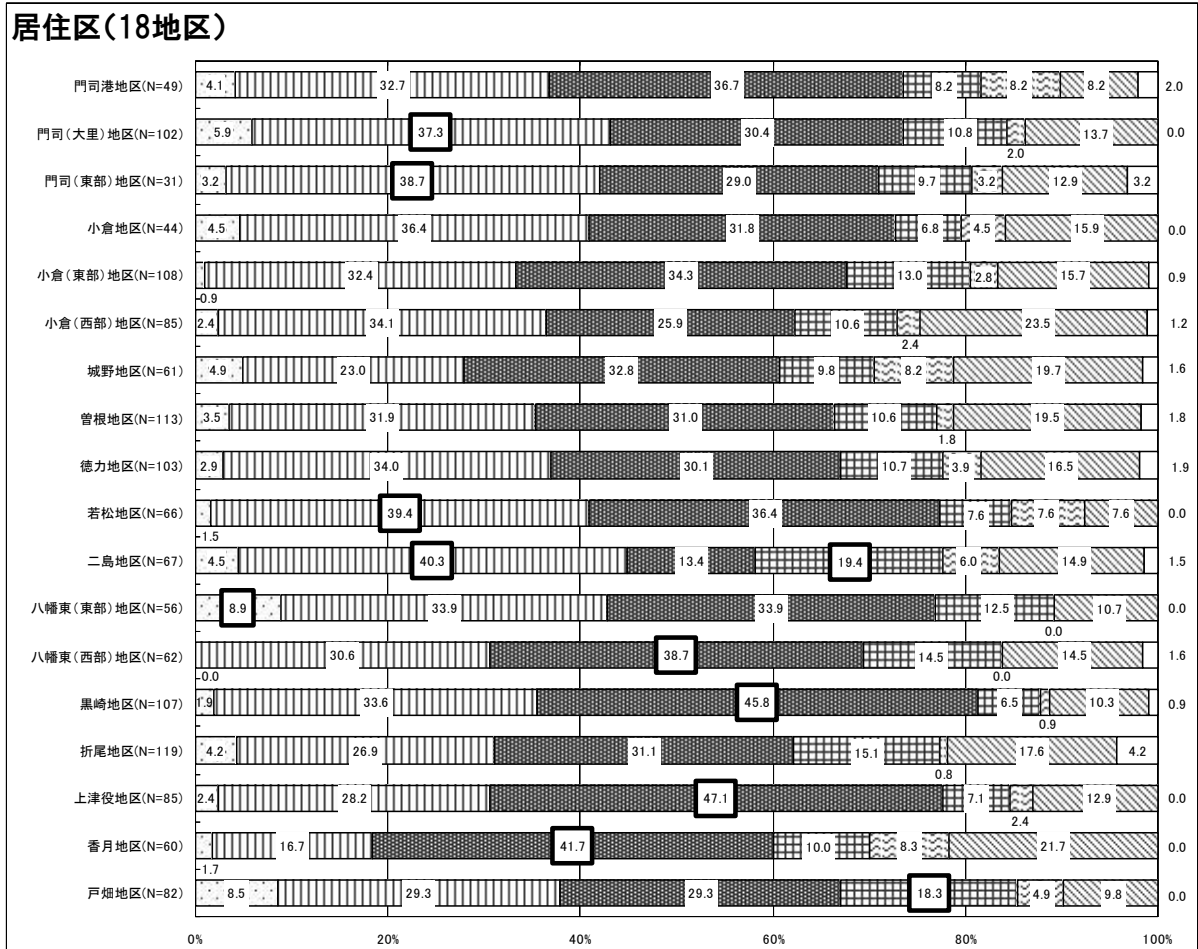
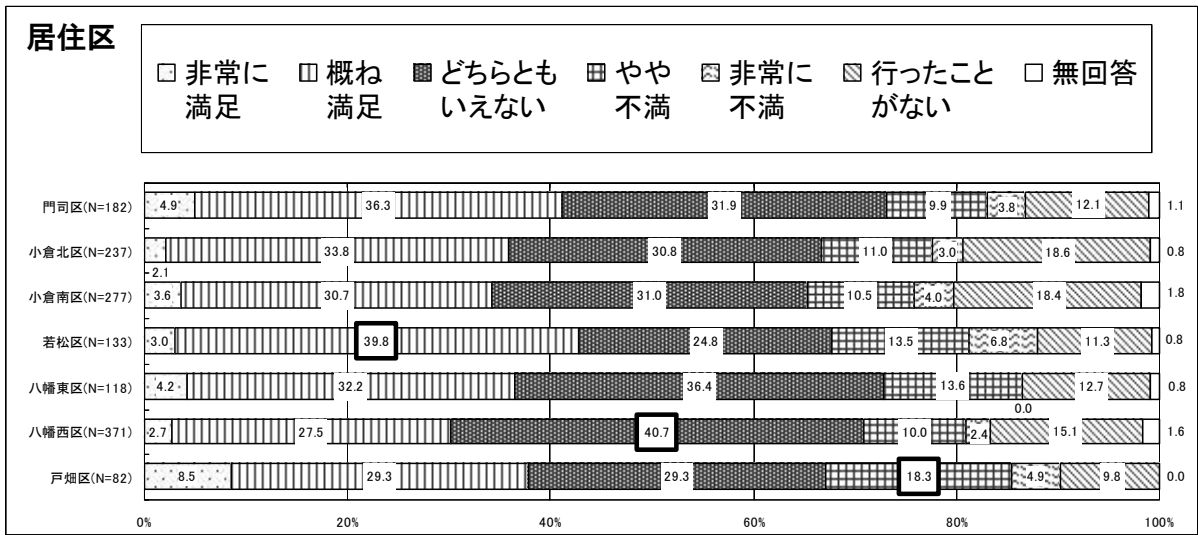
- ◇ 「どちらともいえない」が3人に1人の割合で最多。
- ◇ 「満足派」(35.6%)が「不満派」(14.8%)を大きく上回っている。
- ◇ 「行ったことがない」人は15.1%。



問9 魅力ある海辺づくりについて



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

### 魅力ある海辺づくりについて

#### 【全体的傾向】

この設問では、市の海辺や港について、どのように感じているか尋ねてみた。

最も多かったのが、「どちらともいえない」(33.4%)で、3人に1人の割合となった。次に「概ね満足」(32.0%)と続き、「非常に満足」(3.6%)と合わせた「満足派」は35.6%となった。一方、「やや不満」は11.4%と1割を上回り、「非常に不満」(3.4%)と合わせた「不満派」は14.8%

となった。なお、「行ったことがない」は15.1%であった。

### 【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、「満足派」は女性（36.9%）が男性（34.3%）を上回った。一方、「不満派」は男性（19.9%）が女性（10.9%）を上回った。なお、「どちらともいえない」（男性34.0%、女性33.1%）は男女で大きな差は見られず、「行ったことがない」は女性（18.4%）が男性（10.5%）を上回った。
- ◇ 年齢別では、「満足派」を年齢順に見ると、まず20歳代（33.7%）で3割を上回り、30歳代（27.0%）で一旦割合が低下するが、その後は年齢層が上がるほど割合が高くなり、70歳以上（40.8%）で最も多かった。「非常に満足」は70歳以上（4.7%）で最も多く、40歳代（1.5%）で最も少なかった。「どちらともいえない」は30歳代（40.6%）と40歳代（37.4%）で多く、これらの年齢層では「満足派」を上回った。一方、「不満派」は20歳代（22.1%）で最も多く、強い否定意見である「非常に不満」は30歳代（4.7%）で最も多かった。「行ったことがない」は60歳代（16.7%）で最も多く、20歳代（12.5%）で最も少なかったが、全ての年齢層で1割を上回った。
- ◇ 居住年数別では、「満足派」は3年未満（41.6%）で最も多く、最も少ない2年未満（7.1%）は極端に少なく、1割を下回った。それ以外の居住年数層では3割を上回った。強い肯定意見である「非常に満足」は、3年未満（8.3%）及び2年未満（7.1%）で5%を上回った。「不満派」は3年未満（33.3%）で最も多かった。「どちらともいえない」は2年未満（50.0%）で5割を占め、圧倒的に多かった。「行ったことがない」は、居住年数の短い1年未満及び2年未満（ともに35.7%）で、突出して多かった。
- ◇ 職業別では、「満足派」は主婦・主夫（専業）（43.7%）で最も多く、次いで自営業（41.2%）、無職（39.3%）と続いた。「非常に満足」は、無職（5.9%）のみ5%を上回った。一方、「不満派」は学生（38.5%）で圧倒的に多く、次に多い「自由業」（25.0%）を大きく上回った。「どちらともいえない」は公務員・教員（41.2%）で最も多く、唯一4割を上回った。「行ったことがない」は、その他（18.2%）で最も多く、次いで主婦・主夫（専業）（18.0%）、公務員・教員（17.6%）と続いた。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「満足派」は若松区（42.8%）で最も多く、次いで門司区（41.2%）、戸畑区（37.8%）と続き、八幡西区（30.2%）で最も少なかった。「非常に満足」は戸畑区（8.5%）で最も多く、唯一5%を上回った。「不満派」は戸畑区（23.2%）で最も多く、次いで若松区（20.3%）と、この2区は2割を上回った。「どちらともいえない」は最も多い八幡西区（40.7%）のみ4割を上回り、「行ったことがない」は小倉北区（18.6%）で最も多く、次いで小倉南区（18.4%）、八幡西区（15.1%）と続き、最も少ない戸畑区（9.8%）のみ1割を下回った。  
行政区を18地区に細分化して見ると、「満足派」は二島地区（44.8%）で最も多く、次いで門司（大里）地区（43.2%）、八幡東（東部）地区（42.8%）と続き、18地区中6地区が4割を上回った。最も少なかったのは香月地区（18.4%）で、唯一2割を下回った。「どちらともいえない」では、上津役地区（47.1%）で最も多く、次いで黒崎地区（45.8%）、香月地区（41.7%）と続き、八幡西区の4地区中3地区が4割を上回った。「不満派」は二島地区（25.4%）で最も多く、次いで戸畑地区（23.2%）と、この2地区のみ2割を上回った。なお、「行ったことがない」は、小倉（西部）地区（23.5%）で最も多く、次いで香月地区（21.7%）と、この2地区のみ2割を上回った。